

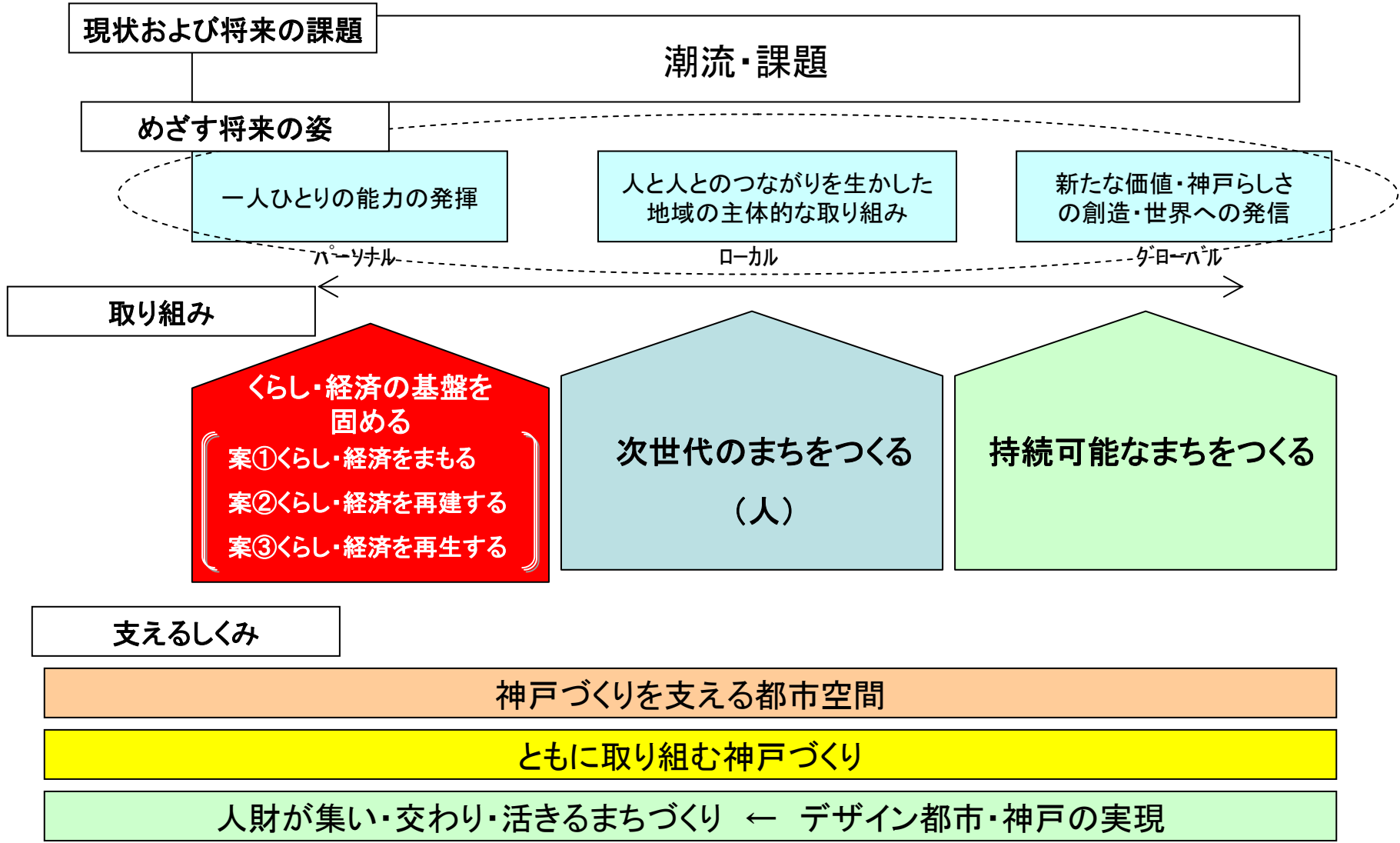
# 「神戸づくりの指針」の全体構成の考え方

平成21年12月24日  
事務局：企画調整局総合計画課

(はじめに)

# 「神戸づくりの指針」構成の概要

# ○「神戸づくりの指針」の考え方(概念図)



# ○「神戸づくりの指針」の構成案

指針は「15年間での取り組みの方向性」を示すものではあるが、現況の社会経済情勢を踏まえると、特に市民の生活不安の解消や疲弊した産業の立て直しに早急な取り組みが求められている。

## 構成

## 各部の主な内容

序論 指針の策定について	▶ 歴史（「協働と参画」の進展、医療産業都市・デザインの取り組み） 基本計画・指針の策定趣旨、構成
第1部 2025年の神戸のまち	▶ 日本・世界および神戸をとりまく社会潮流等、人口推計、 指針構成にあたっての基本的な視点
第2部 暮らし・経済・まちづくりの課題	▶ 厳しい神戸の現状（審議会等の意見を整理）
第3部 暮らし・経済の基盤を固める	▶ 高齢者・障害者・児童福祉・健康・医療・消費 住宅困窮者対策・雇用・ワークライフバランス 商業・農漁業・工業・観光・神戸港・神戸空港
第4部 次世代のまちをつくる	▶ UD・子育て・教育・文化・生涯教育・スポーツ・大学連携・「知」の集積
第5部 持続可能なまちをつくる	▶ 安全（防災・防犯）・美しく魅力あるまち・低炭素社会
第6部 神戸づくりを支える都市空間	▶ 都市空間の全体像、土地利用、交通環境、 地域主体のまちづくり、リーディングエリア
第7部 とともに取り組む神戸づくり	▶ 協働と参画、各主体の役割分担・行政のしくみ 地域支援・区の計画・地域主権（広域行政、大都市制度）
むすび 人財が集い、交わり、活きるまちづくりへ ～「デザイン都市・神戸」の実現～	▶ 「人財」の集積、能力発揮・向上や交流促進の仕組みづくり、 「デザイン都市・神戸」の実現による都市魅力の向上

# 各部の内容

# 序論 指針の策定について①

## (1) 「協働と参画」の取り組み～神戸の歩み～

・「山と海」の豊かな自然、幕末開港以来の進取の気風

### 昭和52年「市民の福祉をまもる条例」

・「自立と連帯」を基本理念とする先駆的な条例

### 平成7年1月 阪神・淡路大震災

### 平成7年10月 第4次神戸市基本計画策定(区別計画は8年3月)

・「協働」理念、行政主導・開発型の計画からの転換期

阪神・淡路大震災の復旧・復興の経験

復興計画、復興の総括・検証

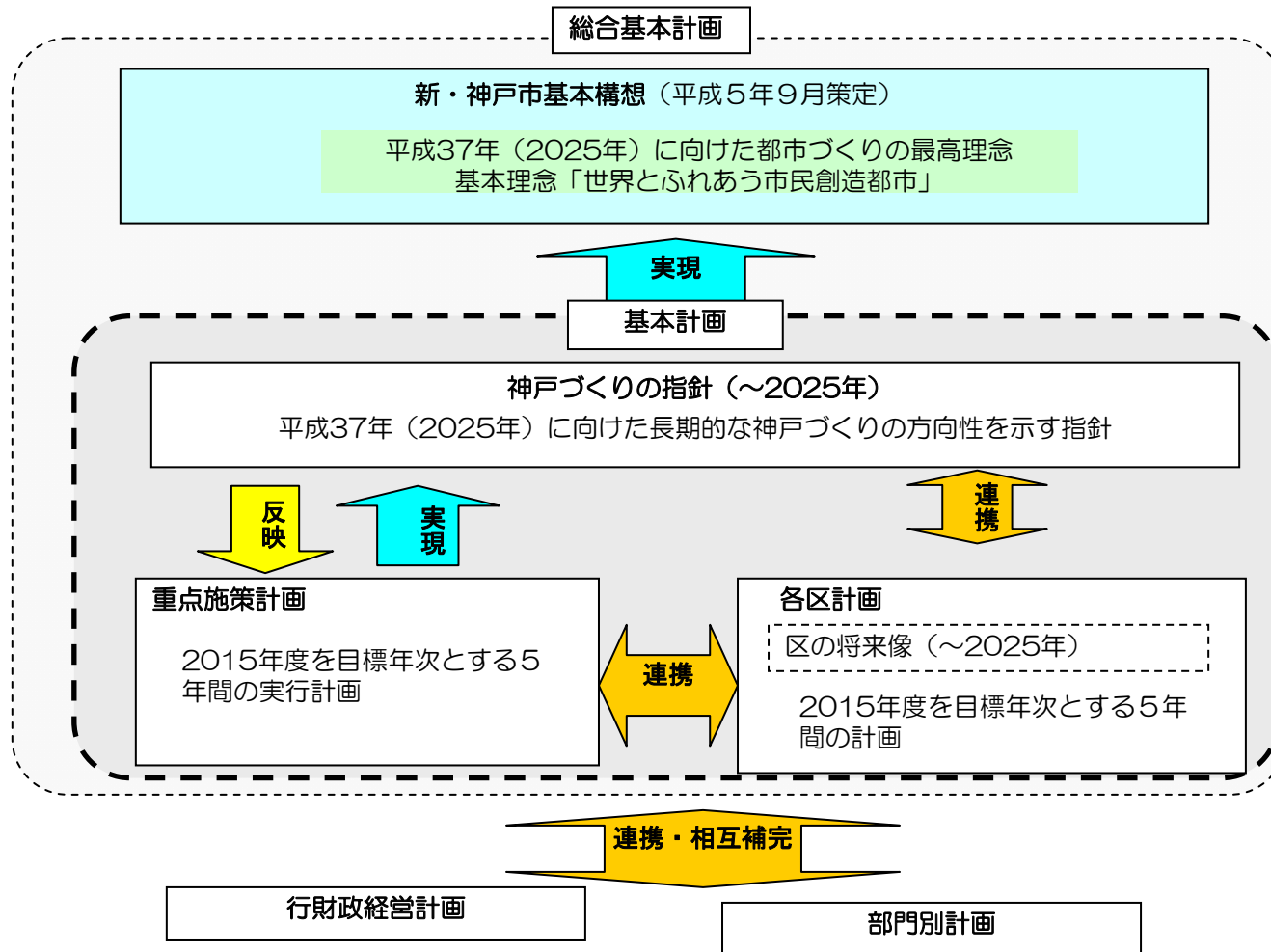
基本姿勢:協働と参画のまちづくり

キーワード:「安全・安心」、「健康」、「交流・融合」

### 平成17年6月 新たなビジョン(神戸2010ビジョン、区中期計画)策定

# 序論 指針の策定について②

## (2) 基本計画の構成、位置づけ

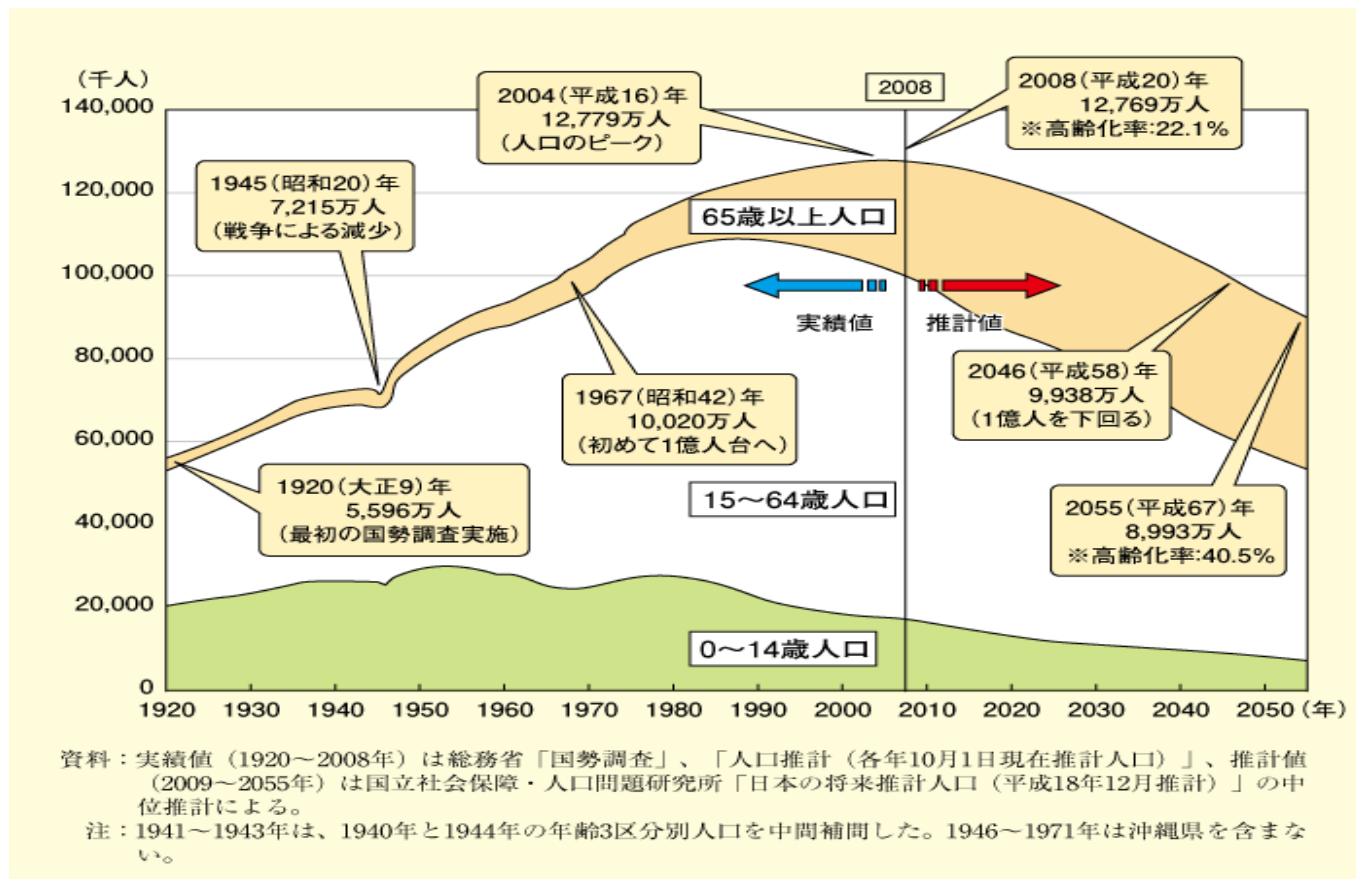


# 第1部 2025年の神戸のまち①

## 1 神戸を取り巻く社会・経済の動き

### (1) 少子・超高齢化の進行(人口減少社会の到来)

- ・日本は、平成17年に人口減少局面に入った。
- ・生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加。





# 第1部 2025年の神戸のまち②

## ○神戸市の人口動向

- ・神戸市の推計人口(21年11月現在) 1,537,515人 =過去最高値を更新。
- しかし、①長期的には日本全体での人口減少は避けられず、神戸市でも人口減少の可能性が高い。
- ②既に高齢化率は、他の政令市と比較しても高い部類にある(12都市中3番目)。

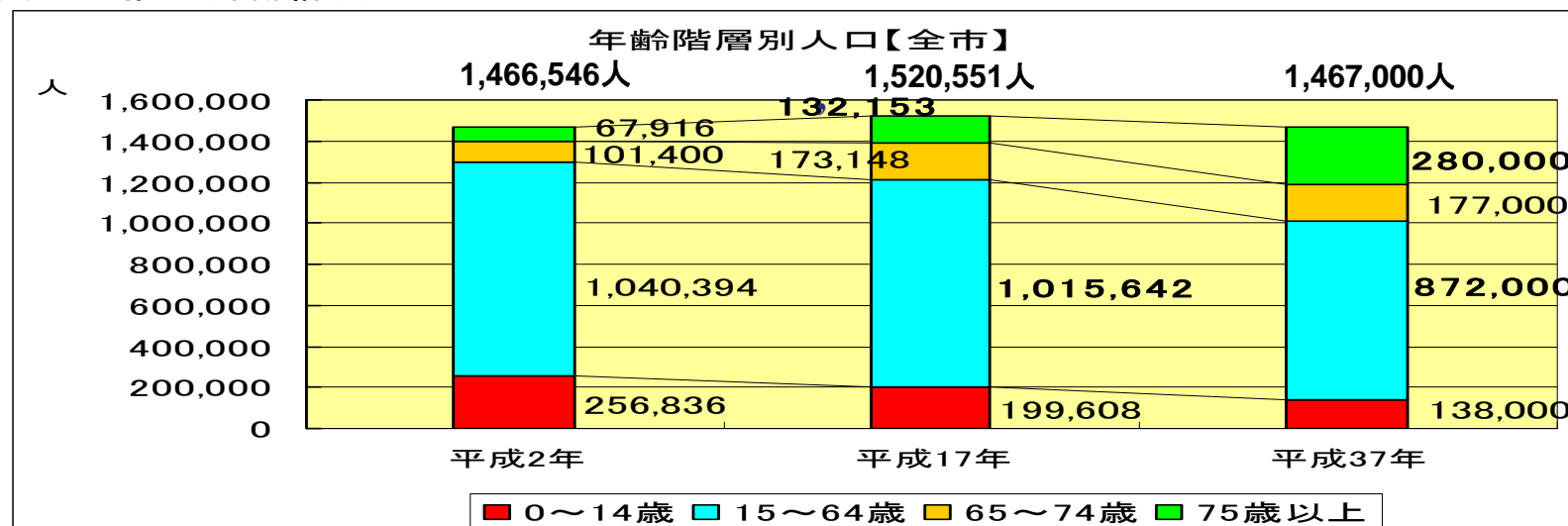
### 1 人口の推移(自然増減・社会増減・出生率)

注)増減は前年比。出生率は人口千対

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年
全市人口		1,477,410	1,423,792	1,493,398	1,525,393	1,534,157
	自然増減	+4,104	-2,488	+2,314	-5	-513
	社会増減	+7,638	-44,353	+6,607	+4,950	+3,823
出生率	神戸市	9.67	9.03	9.01	8.22	8.40
	全国	10.41	9.83	9.68	8.73	8.68

出典:神戸市企画調整局総合計画課調べ 出生率については総務省統計局「人口推計月報」

### 2 将来人口推計(年齢構成)



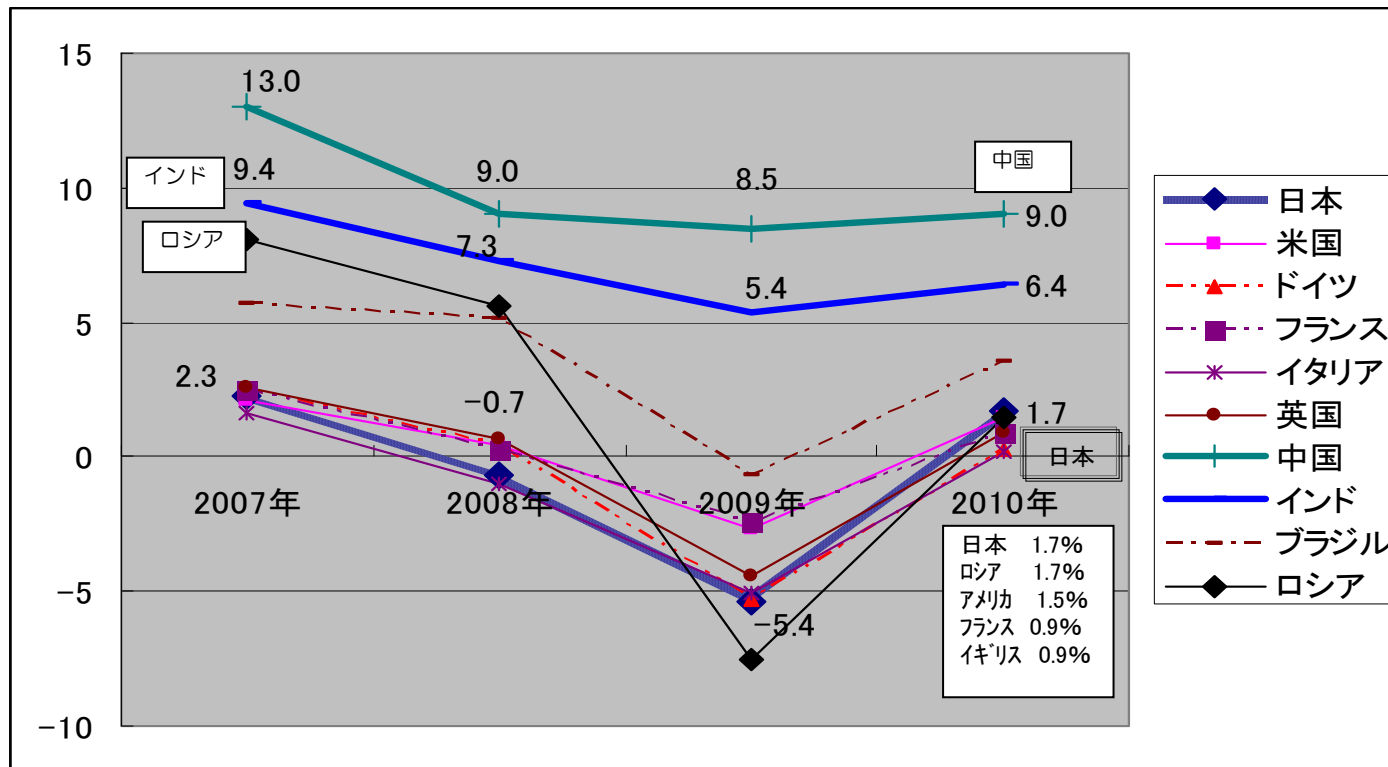
出典:平成17年までは国勢調査、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計値(中位推計)

# 第1部 2025年の神戸のまち③

## (2) 経済のグローバル化の進行

- ・ICTや物流の発達、新興国の台頭等により経済活動のグローバル化が進行。
- ・金融工学の発達、投資のボーダレス化などにより、サブプライム問題による世界同時不況など、世界の経済状況が市民生活へ直接影響。

各国の経済見通し(実質GDP成長率(%))

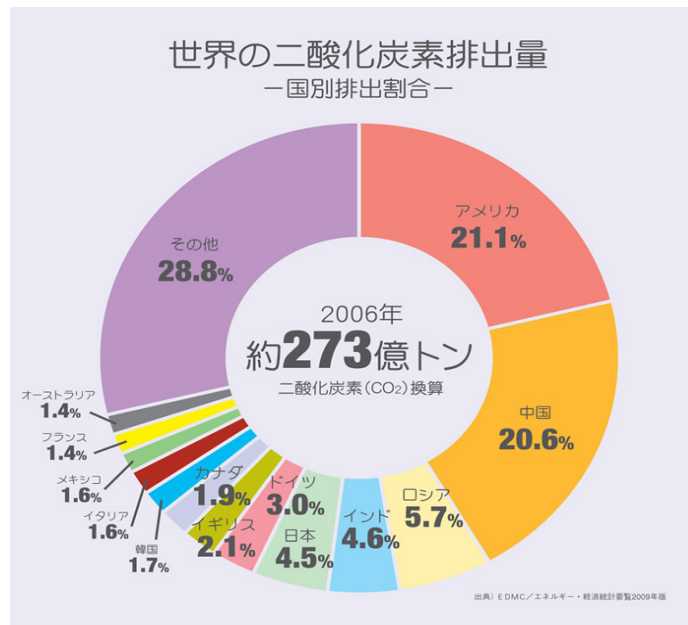


出典:外務省経済局「主要経済指標」(2009年11月)

## 第1部 2025年の神戸のまち④

### (3) 地球温暖化防止の取り組み

- ・京都議定書による温室効果ガス削減に向けた各国での取り組み  
(1990年比△6%(EU△7%、米国△8%))⇒達成には厳しい状況
- ・日本の削減目標の設定(1990年比で2020年までに△25%)
- ・「COP15」での国際的枠組みの動向



出典: 全国地球温暖化防止推進センターウェブサイトより

### 主な国の温室効果ガス削減目標

アメリカ	2020年までに17%削減(2005年比)
欧州連合(EU)	2020年までに20~30%削減(1990年比)
日本	2020年までに25%削減(1990年比)
中国	2020年までにGDP当たり40~45%削減(2005年比)
インド	2020年までにGDP当たり20~25%削減(2005年比)
ロシア	2020年までに25%削減(1990年比)

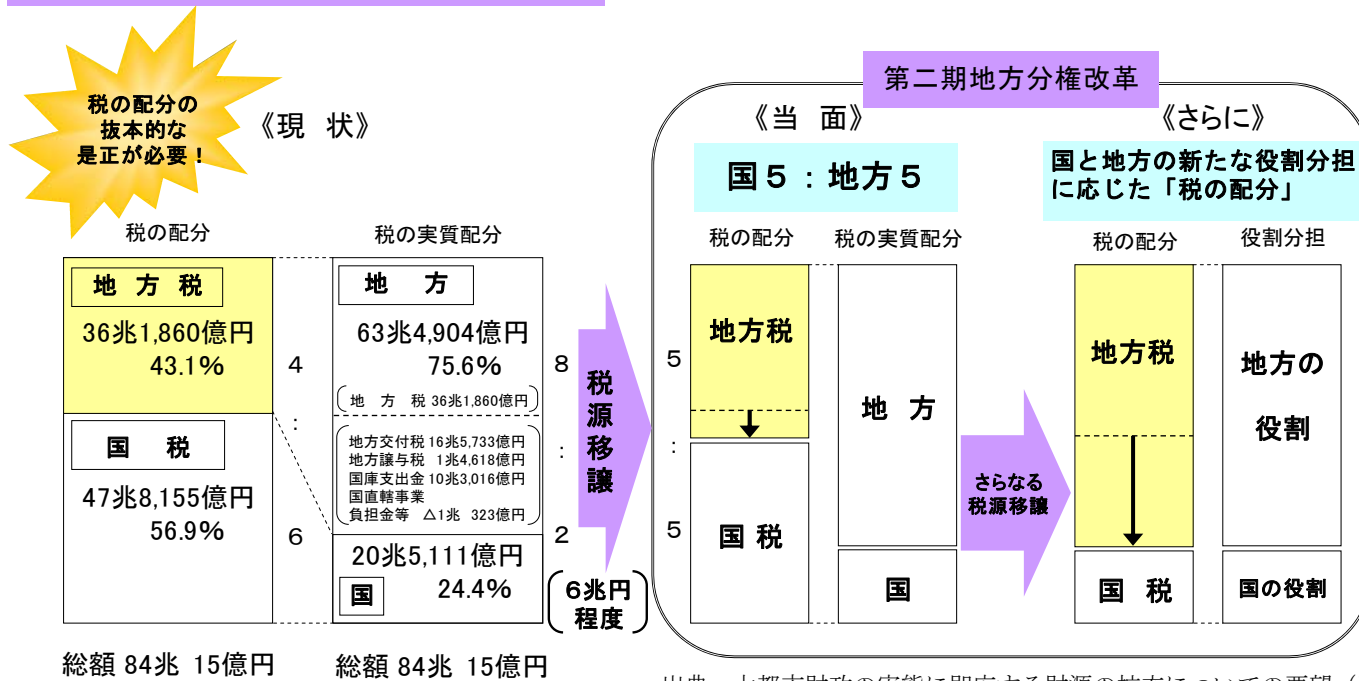
出典: 新聞報道による

# 第1部 2025年の神戸のまち⑤

## (4) 大都市における課題

- ・平成19年の地方分権改革推進法の施行を起点とした地方分権への取組み。
  - ・新政権による「中央集権⇒地方への分権」から「地域主権⇒地域からの発信」への方向転換。
- 一方で、
- ・必要な税配分がなされていないことによる構造上の問題。

国・地方における租税の配分状況(平成21年度)



地方の歳出規模と地方税収入に大きな差があり、役割に応じた税源移譲が必要となっています。

# 第1部 2025年の神戸のまち⑥

## 2 神戸づくりの指針の構成の視点

めざす姿

### ①市民一人ひとりが能力を発揮するまち

・さまざまな障害(身体的、経済的、社会的、等)を乗り越え、個人が持てる能力を伸ばし活かすことができるまちへ

### ②人と人とのつながりを活かした地域主体のまち

・「きずな」を活かし、自律的なしくみを持って地域がさまざまな課題を解決するまちへ

### ③新たな価値と神戸らしさを世界へ発信するまち

・神戸のもつポテンシャルを発揮し、国内のみならず海外に対しても発信力のあるまちへ

民・学・産と行政の  
協働による取り組み

第3部 暮らし・経済  
の基盤を固める

第4部 次世代のまち  
をつくる

第5部 持続可能な  
まちをつくる

## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題(市民生活部会意見まとめ)①

### 1 くらしの課題①

- 【福祉】
  - ・「必要とされ、能力を発揮すること」で尊厳をもって生きられるという視点が必要。
  - ・行政とNPO等の相互補完関係の構築。
  - ・「高齢者・障害者」と一概に論じるのではなく、個人の状況に応じた支援の必要性。
  - ・社会的企業等による、積極的な就労の場づくりの促進。
- 【健康・医療】
  - ・救急医療のさらなる充実の必要性。
  - ・自殺対策、若年無業者対策など「心の健康」の問題の深刻化。
- 【消費】
  - ・相談機能に加え、検査機能の充実。
  - ・中古住宅の安全・安心の確保。
- 【子育て】
  - ・小中学生の頃からの「子育てに対する肯定的な感情(育児性)」や、思いやりの心、社会規範意識等の醸成。
  - ・家庭における子育てを基礎とした、社会全体のサポート。
  - ・幼稚園・保育所と、地域・NPO等とのネットワークの強化。
  - ・児童虐待防止や病児・病後児サポート等の重要性。
  - ・障害児に対する地域の理解促進、窓口の専門性の向上。
- 【教育】
  - ・防災・環境・国際理解など特色ある教育の推進。
  - ・心の教育の充実。
  - ・家庭や地域など、社会全体で教師を支えることが必要。
  - ・NPOとの連携による学童保育の充実など、多様な主体による教育。

## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題(市民生活部会意見まとめ)②

### 1 くらしの課題②

- 【生涯学習・スポーツ】
- ・いくつになっても学べる学習機会づくり。
  - ・生涯学習の成果を地域活動に還元する成果の明確化。
  - ・市民のスポーツへの積極的な参加促進
  - ・スポーツイベントの誘致による「みるスポーツ」の振興。
- 【防災・防犯】
- ・防災福祉コミュニティの活動範囲についての検討。
  - ・民間が主体となった、震災の教訓の継承・発信。
  - ・地域における防犯の取り組みの重要性。
- 【ユニバーサル社会】
- ・地域に根づいたユニバーサル社会づくりの重要性。
  - ・制度やしきみ面からの、UDのさらなる推進。
  - ・外国人にとってくらしやすい社会づくり。
  - ・あらゆる人をしっかり包み込み受け入れる「ソーシャルインクルージョン」の考え方の必要性。
- 【コミュニティ】
- ・コミュニティの活動範囲のあり方についての検討。
  - ・障害者など支援を必要とする人に対する地域の理解の促進。
  - ・「テーマ型のNPO」と「知縁型のコミュニティ」の連携による、重層的なコミュニティづくりや、社会的企業の参画促進。
  - ・自律的な地域コミュニティづくりを促進するための、行政の体制の強化。

## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題(活力・魅力部会意見まとめ)③

### 2 経済の課題①

- 【雇用】
- ・就業率の低い女性の就労を促進するための介護、子育てなどの支援や再就職支援。
  - ・高齢者の就労促進。
  - ・多様な人々に対応する多様な働き方など、個性を活かす就労促進。
  - ・働き甲斐、働く意味といった人間教育が就業意欲につながる視点の必要性。
  - ・今後成長の見込まれる労働集約型の介護・医療分野の産業育成。
- 【地域産業】
- ・農地の有効活用に向けた農業の担い手間の連携。
  - ・商業者自らが行う企画開発、人材育成の強化による商業の業としての活性化。
  - ・農業、商業における硬直的な土地利用などに伴う資源の柔軟で効率的な利用の難しさ
- 【社会的企業】
- ・市民に対しての社会的企業の認知の方法。
  - ・社会的企業のサービス・商品の消費などの前提となる社会的企業の評価。
  - ・社会的企業等による若年無業者などに対する積極的な就労の場づくりの促進。
  - ・メディカルツーリズムの展開。
- 【観光】
- ・コンベンション施設の機能の弱い現実。大型コンベンションセンターを活かした都市の成長戦略の検討。
  - ・神戸の魅力発信の手段としての150万人の市民の活用。
  - ・ICTを活用した観光情報発信の弱さ。受信側に対応した情報発信。
  - ・夜景観光や、都心域以外のウォータフロントなどの観光資源の活用。



## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題 (活力・魅力部会意見まとめ) ④

### 2 経済の課題②

- 【ものづくり産業】
- ・中小企業が図面から忠実に作り上げる技術力の反面、提案力が弱いことへの対応。
  - ・グローバル化によるコスト競争の激化。全国的な製造現場の海外流失。工業製品の「地産地消(消費する国で製造する)」の動き。
  - ・再生可能エネルギーなど低炭素社会に向けた取り組みの重要性。
  - ・ものづくり人材の不足に対応した技能者や技術者の育成。
- 【みなと】
- ・神戸経済に依然大きな割合を占める神戸港の活性化。
  - ・みなとの機能の効率化によるコンテナ貨物の集約。
  - ・神戸港での低炭素化に向けた取り組み。
  - ・神戸空港の運用時間延長などの利便性の強化と関西3空港一元管理。
- 【文化】
- ・文化を活かした観光や産業の活性化の視点の追加。
  - ・居留地以外の西北神の広大な地域の文化についての活用。
  - ・文化を活用した市民の一体感の創出。
- 【知の集積】
- ・市民への高度医療の提供や、経済の活性化と雇用を生み出す医療産業都市構想への市民理解。
  - ・次世代スーパーコンピュータなどイノベーションの核に集まる企業と研究者の誘致。
  - ・外資系企業の誘致のための多言語対応。
- 【デザイン(ものづくり)】
- ・デザイナーの養成と活躍の場の確保。行政の支援窓口の必要性。

## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題(都市空間部会意見まとめ)⑤

### 3 まちづくりの課題①

- 【すまい】
  - ・防災やみどりなども総合的に組み合わせられて個々の住環境があると捉えるべき。
  - ・人口減少社会での地域の助け合いを促進する集住のあり方。
- 【防災・防犯】
  - ・市民、事業者、行政の「なすべきこと」の明確化。
  - ・東南海地震などに対応した都市機能の具備など記述内容の充実が必要。
  - ・減災への個々の取り組みが、全体につながっていることを見せることが必要。
- 【自然保全】
  - ・緑地、森林など都市環境インフラとしてのみどりの重視。
  - ・都市環境を改善するための六甲山の活用。
  - ・神戸の特徴である海や河川を意識し、空間構造でも触れておくべき。
- 【低炭素社会】
  - ・スマートグリッドの取り組みなど低炭素社会実現に向けたモデル地域の検討。
  - ・地域特性に合わせた省エネ技術の導入など利用に関する戦略が必要。
  - ・大型客船などの停泊中における陸上電力の供給などの先導的な取り組みが必要。
- 【デザイン(まち)】
  - ・地形や自然がきれいなまち。欧米人が憧れる雰囲気があり強みとして活かすべき。
  - ・神戸の山手の高級住宅地の維持。
  - ・眺望景観の視点場の検討。恒常的な夜間景観による魅力の創出。
  - ・デザイン都市・神戸について、市民を巻き込んで理解を深める取り組みが必要

## 第2部 くらし・経済・まちづくりの課題 (都市空間部会意見まとめ) ⑥

### 3 まちづくりの課題②

#### 【空間の全体像】

- ・人口減少社会に対応した都市空間のあり方。
- ・道路や交通計画だけでなく、水やみどりの都市環境インフラの全体像への位置づけ。
- ・新しい環境産業などまちの活力と自然の保全などが共存できる計画にすることが必要

#### 【土地利用】

- ・縮退など社会情勢をふまえたディフェンスの計画づくりが必要
- ・ウォーターフロントの産業の土地利用のあり方と水辺空間の利用。

#### 【交通】

- ・超高齢化に対応した公共交通だけでなく、パーソナルな移動手段への対応が必要。
- ・低炭素物流・交通社会に対応したLRTの導入など交通環境の形成。
- ・ストック活用による交通需要マネジメントが必要。

#### 【地域特性に応じた地域主体のまちづくり】

##### (密集市街地)

- ・地域でのあるべきまちの姿の共有と個々の建て替え時の適切な誘導。

##### (成熟したニュータウン)

- ・団塊の世代のまちづくりへの参画にターゲットを絞った取り組み。

##### (田園地域)

- ・農業の多様化に対する土地利用・景観のコントロール。

#### 【リーディングエリア】

##### (都心・WF)

- ・個々の建築を誘導する全体プランの検討。車の乗り入れ規制など回遊性の向上。

##### (ポートアイランド)

- ・第1期部分の生活機能の低下。

##### (兵庫運河周辺)

- ・まちづくりへの企業参画の促進。

# 第3部 くらし・経済の基盤を固める①

データ1: 高齢単独世帯率の大都市比較

(出典: 大都市比較統計年表から作成)

	総人口 (A)	一般世帯 数 (B)	75歳以上 の 単独世帯 数(C)	C/A	C/B
札幌市	1,880,863	833,796	29,484	1.6%	3.5%
仙台市	1,025,098	434,539	11,934	1.2%	2.7%
さいたま市	1,176,314	456,749	12,457	1.1%	2.7%
千葉市	924,319	369,571	10,132	1.1%	2.7%
東京都区部	8,489,653	4,024,884	185,590	2.2% ④	4.6% ⑤
川崎市	1,327,011	592,578	14,823	1.1%	2.5%
横浜市	3,579,628	1,443,350	47,188	1.3%	3.3%
名古屋市	2,215,062	935,511	37,683	1.7%	4.0%
京都市	1,474,811	641,455	32,047	2.2% ⑤	5.0% ④
大阪市	2,628,811	1,203,312	66,089	2.5% ①	5.5% ③
神戸市	1,525,393	639,480	35,208	2.3% ③	5.5% ②
広島市	1,154,391	477,664	19,979	1.7%	4.2%
北九州市	993,525	412,247	22,948	2.3% ②	5.6% ①
福岡市	1,401,279	632,653	21,459	1.5%	3.4%

神戸市の高齢単独世帯の比率は、総人口比で2位、世帯数比で3位と、高い状況にあります。

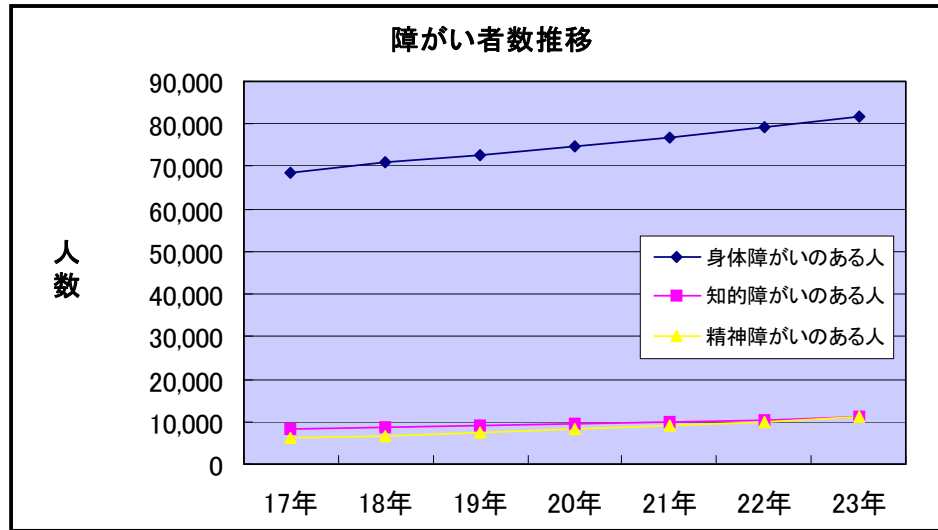
データ2: 要介護・要支援者数見込み※年齢別出現率が2009年3月と同じと仮定。(出典: 神戸市保健福祉局調べ)

	2009年3月	2025年	2035年
75歳以上人口	155,346	279,876	287,961
うち要介護・要支援認定者	51,615	99,848	112,283
要支援1	9,895	19,360	21,256
要支援2	7,954	15,088	16,618
要介護1	9,393	17,842	20,153
要介護2	7,372	14,136	16,025
要介護3	7,024	13,604	15,514
要介護4	5,243	10,393	11,930
要介護5	4,734	9,426	10,787

要介護、要支援者数は、今後15年間で1.9倍、25年間で2.2倍に増加することが予想されます。

## 第3部 くらし・経済の基盤を固める②

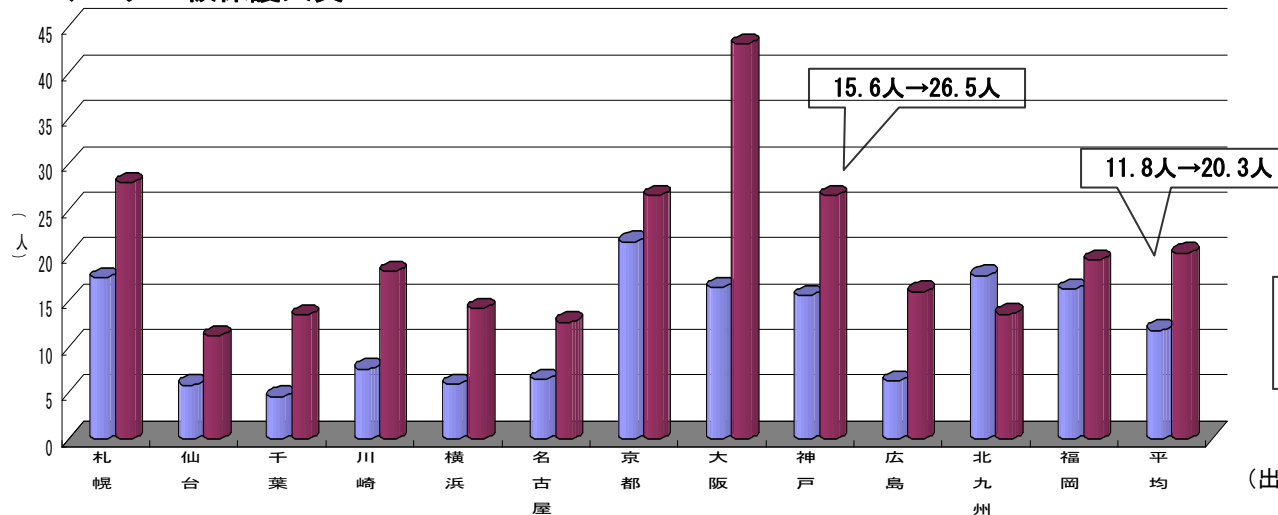
データ3:障がいのある人の人数の推移(実数及び推計)



平成17~20年度の間、身体障害者は9%、知的障害者は16%、精神障害者は24%増えています。

(出典:神戸市保健福祉局調べ)

データ4:被保護人員

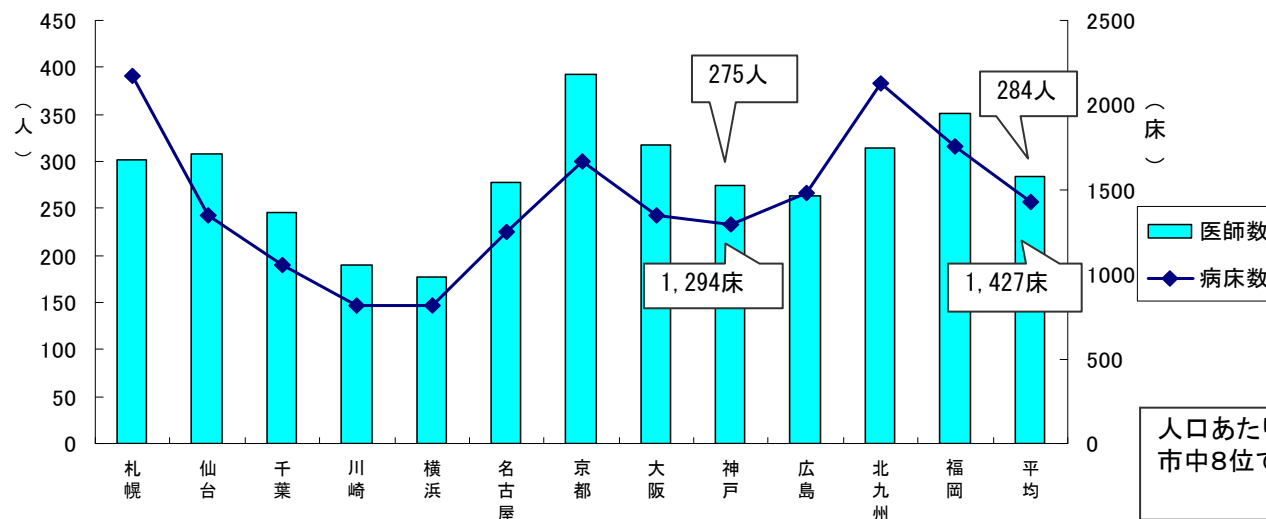


19年の人口あたりの被保護人員数は、12大都市中3位で平均より多く、平均と同様の伸びを示しています。

(出典:大都市比較統計年表から作成 各年度実人員の平均値)

## 第3部 くらし・経済の基盤を固める③

データ5: 医師数及び病床数(人口10万人あたり)



(出典:厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査(平成18年12月)、病院報告及び医療施設調査(平成19年10月)より作成)

人口あたりの医師数及び病床数は、いずれも12大都市中8位で平均より少ない状況です。

データ6: 生活情報センターへの相談件数の推移

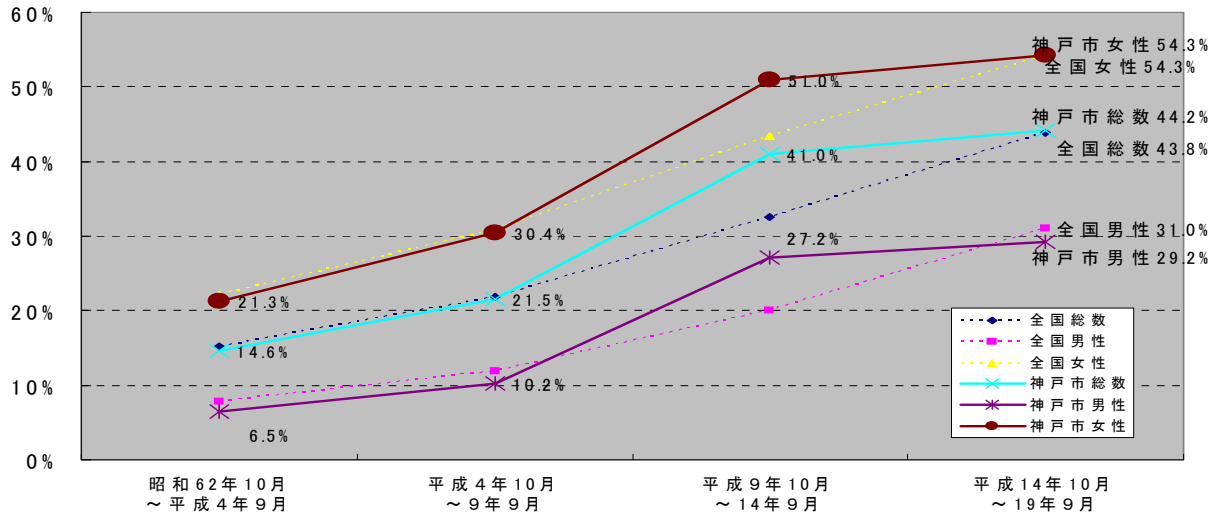
年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
件数	22,949件	16,565件	15,427件	13,084件	12,963件
対前年度比増減	34.8%	△27.8%	△6.9%	△15.2%	△0.9%
架空・不当除く	11,015件	10,968件	10,702件	10,474件	10,985件
対前年度比増減	△4.3%	△0.4%	△2.4%	△2.1%	+4.9%

架空請求に関する相談件数が大幅に減少した一方で、インターネットを利用した詐欺など、消費者問題は年々複雑化・多様化しています。

(出典:神戸市市民参画推進局調べ)

# 第3部 くらし・経済の基盤を固める④

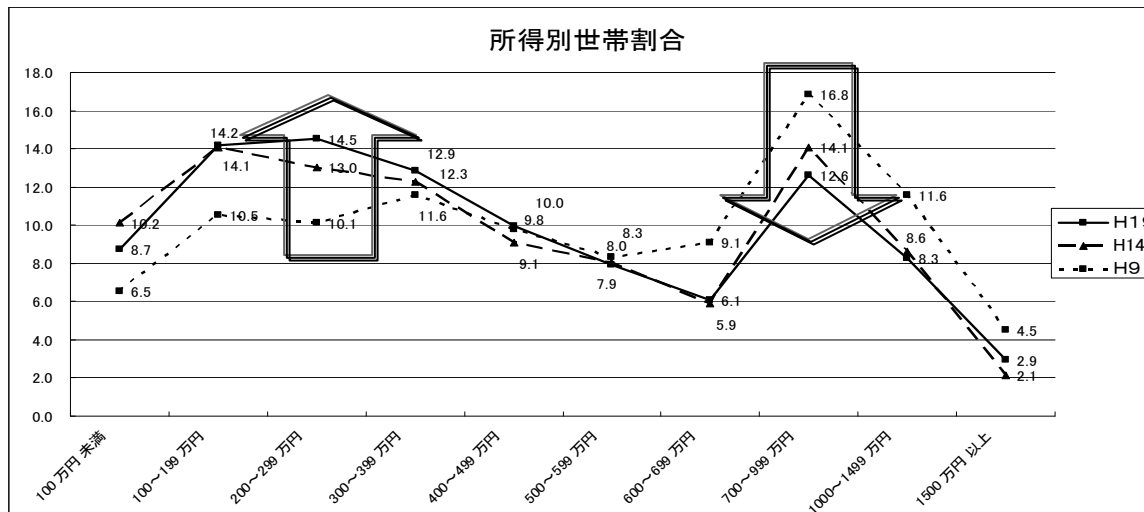
データ7: 男女、初期就業時期別「非正規就業者として初職に就いた者」の割合



神戸市全国とも平成14年10月～19年9月に初職に就いたものの4割が非正規雇用となっています。

出典: 就業構造基本調査

データ8: 神戸市における所得別世帯割合の推移

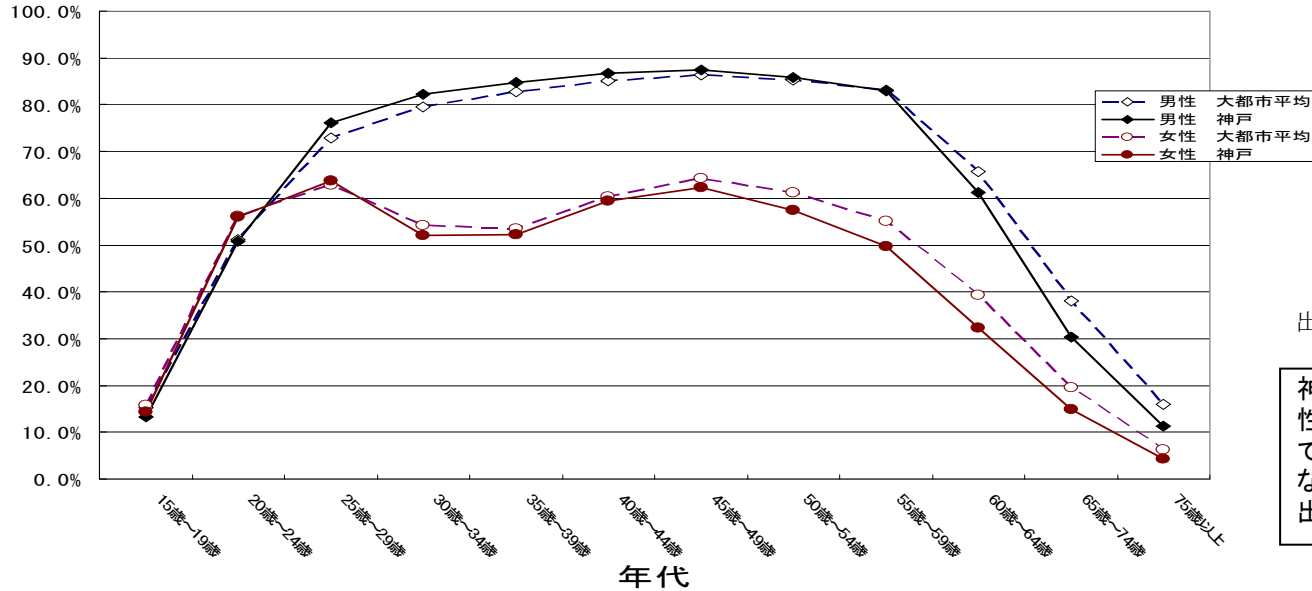


200万円以上～299万円未満の世帯が4.1%増加する一方、700万円以上～999万円未満の世帯が4.2%減少するなど、全体的に低位の割合が高まっています。

出典: 平成19年就業構造基本調査

# 第3部 くらし・経済の基盤を固める⑤

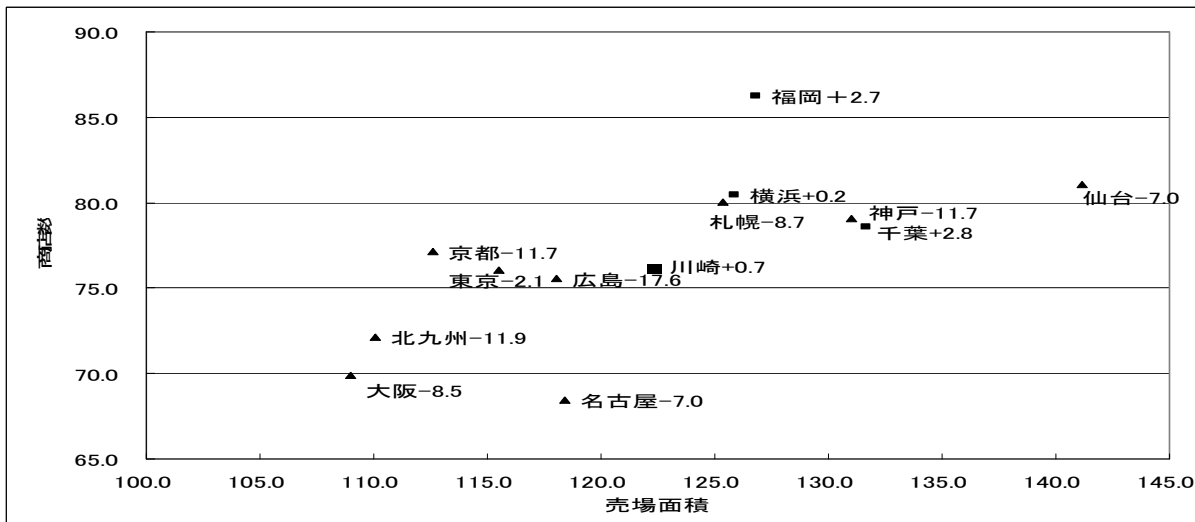
データ9: 就業率(平成17年国勢調査) > 神戸市と大都市との年代別比較



出典：平成17年国勢調査

神戸は就業率が低く、全国と比較しても、男性では60歳以上で就業率が低くなり、女性では、20歳代を除き、全体的に就業率が低くなっています。(就業者÷15歳以上人口で算出)

データ10: 各都市のH6年・19年 商店数・売場面積・販売額の比較



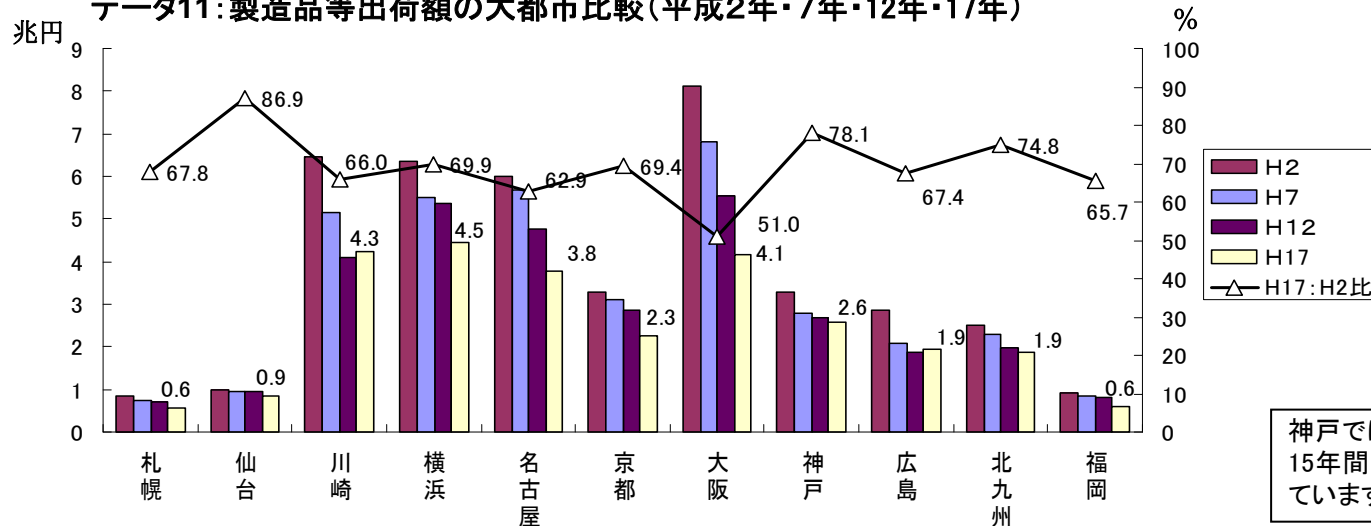
神戸では、平成19年と6年とで、売場面積が1.3倍に増加しているが、商店数が2割減少し、販売額が1割強減少しています。床面積あたりの販売額の減少が激しくなっています。

出典：平成6年、19年商業統計



# 第3部 くらし・経済の基盤を固める⑥

データ11: 製造品等出荷額の大都市比較(平成2年・7年・12年・17年)



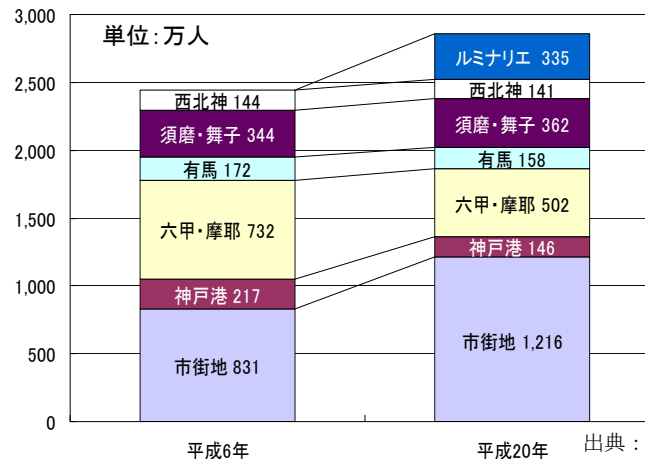
神戸では、製造品等出荷額が減少傾向にあるが、15年間の平均減少率は他都市と比べ少なくなっています。

データ12: 2006年度訪日観光客都市別訪問率

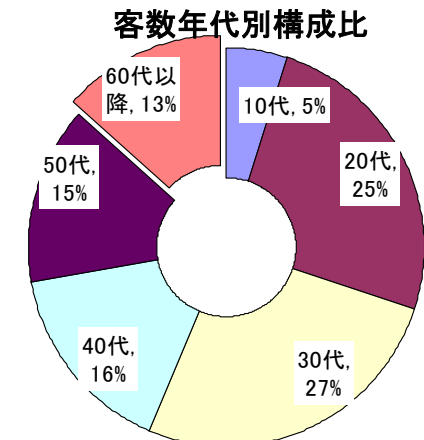
順位	地域名	訪問率	順位	地域名	訪問率
1	新宿	26.7	9	横浜	9.7
2	大阪市	21.4	15	TDR	8.2
3	京都市	20.1	19	奈良市	5.9
4	銀座	15.2	21	神戸	5.6
5	渋谷	14.7	—	姫路	1.8

出典:国際観光振興協会

データ13: 平成6年・20年神戸市観光入込客数



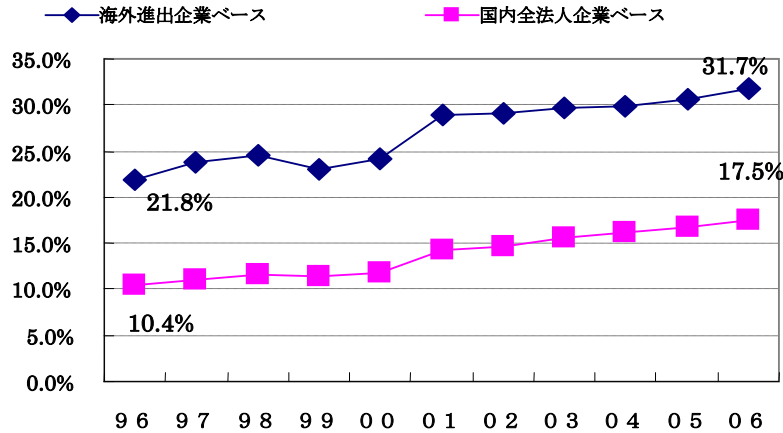
データ14: 平成20年神戸市観光入込客数年代別構成比



訪日観光客数は、東京都市部、大阪、京都、いわゆるゴールデンルートから外れており、比較すると観光客数が少ない状況です。

# 第3部 くらし・経済の基盤を固める⑦

データ15: 製造業における海外生産比率の推移

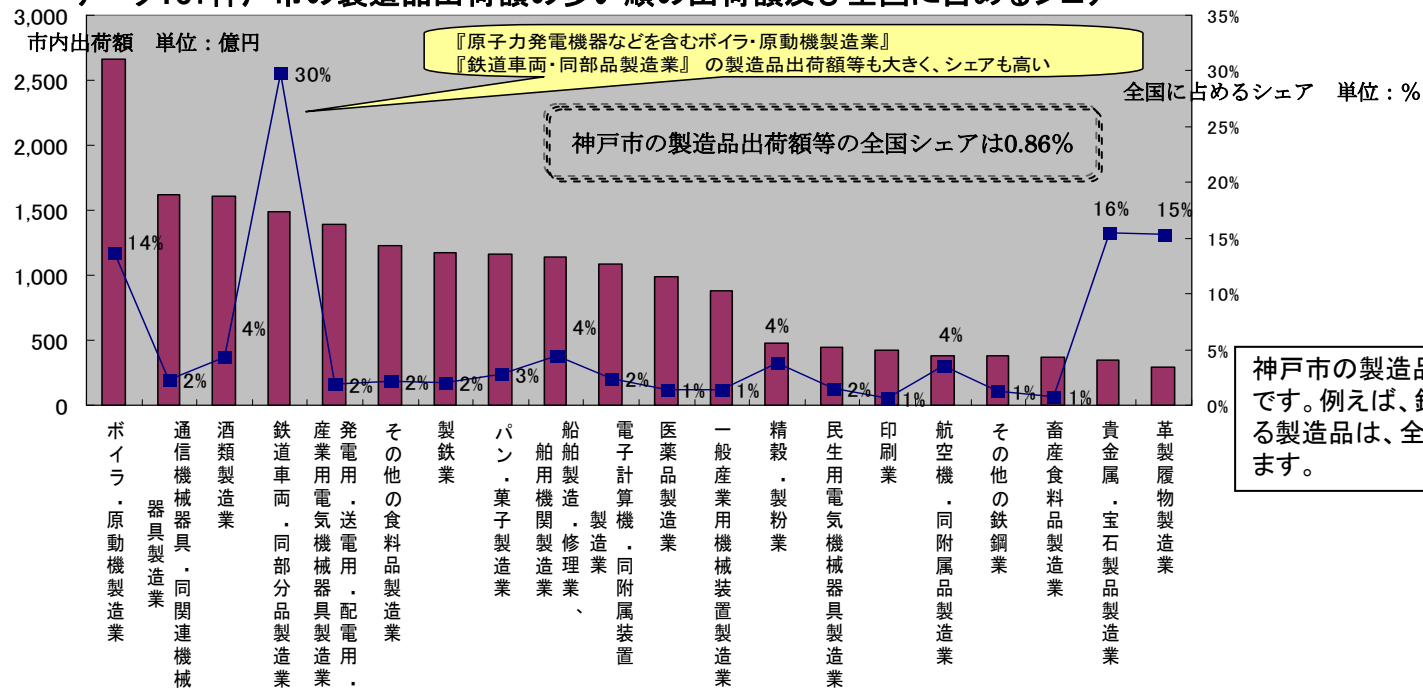


資料：財務省「法人企業統計」、  
経済産業省「海外事業活動基本調査」

- ・国内全法人の海外生産比率は、現地法人売上高 ÷ (現地法人売上高 + 国内法人売上高)
- ・海外進出企業ベースの海外生産比率は、現地法人売上高 ÷ (現地法人売上高 + 本社企業売上高)
- ・06年度は見込み

海外直接投資の増大に伴い、海外生産比率も増大傾向しています。

データ16: 神戸市の製造品出荷額の多い順の出荷額及び全国に占めるシェア



神戸市の製造品出荷額等の全国シェアは0.86%です。例えば、鉄道車両のように30%を越えている製造品は、全国でもトップの出荷額を占めています。

出典：平成17年工業統計

## 第3部 くらし・経済の基盤を固める⑧

データ17: 神戸港のコンテナ取り扱い量ランキング

順位	1992年	千TEU
1	香港	7,972
2	シンガポール	7,560
3	ロッテルダム	4,125
4	高雄	3,961
5	釜山	2,751
6	神戸	2,608
7	ロサンゼルス	2,289
8	ハンブルグ	2,268
9	ニューヨーク	2,014
10	基隆	1,941

順位	2007年	千TEU
1	シンガポール	27,900
2	上海	26,150
3	香港	23,880
4	深セン	21,100
5	釜山	13,270
6	ロッテルダム	10,790
7	ドバイ	10,650
8	高雄	10,250
9	ハンブルグ	9,900
10	青島	9,460

11	横浜	1,887
14	東京	1,729
23	名古屋	1,098

31	横浜	3,230
35	名古屋	2,890
44	神戸	2,420

出典: Containerisation International

アジア諸国の台頭に加え、地方港の整備、震災の影響もあり、相対的に神戸港の地位が低下しています。

データ18: 神戸港の経済効果(平成15年の市内生産所得に占める神戸港の経済波及効果も含めた付加価値額の推計) 出典: みなと総局調べ

	産業部門	(主な内容)	就業者数(人)	全就業者数比率	付加価値額(億円)	市内生産者所得比率
①	港湾物流関連産業(直接効果)	海運業、倉庫業、港湾運送業等	33,318	4.8%	2,217	5.3%
②	港湾活用産業(直接効果)	食料品製造業、貿易業、鉄鋼業、造船業等	49,624	7.2%	5,345	12.7%
③	港湾物流産業+活用産業(間接効果)		29,491	4.2%	1,990	4.7%
④	小計①+②+③		112,433	16.3%	9,552	22.7%
⑤	港湾親水関連(直接効果)	道路旅客運送業、飲食・宿泊業等	68,968	10.0%	3,959	9.4%
⑥	港湾親水関連(間接効果)		16,042	2.3%	1,083	2.6%
⑦	小計⑤+⑥		85,010	12.4%	5,042	12.0%
	上記 市内生産者所得比率④+⑦		197,443	28.7%	14,594	34.7%

付加価値額の市内生産所得に対する比率は34.7%となっており、その内訳は、港湾物流産業と活用産業で22.7%、港湾親水関連の12.0%となっています。

## 第3部 暮らし・経済の基盤を固める⑨

### 【取り組みの方向性①】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
ともに支えあう社会をめざす	(1)支援制度の充実・重層化等の推進 (2)支援体制の充実 (3)きめ細かい対応の強化 (4)地域での活動や就労等に対する支援 (5)地域における支えあいの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療・福祉及び雇用や住宅等の施策が連携した総合的・専門的かつ継続的な対応の推進</li> <li>・身近な相談窓口におけるワンストップサービスの提供</li> <li>・福祉等の担い手(支援サービス事業者、社会的企業、NPO等)の社会的認知度の向上、さらなる活性化</li> <li>・障害者等の雇用機会の創出</li> </ul>
安心なくらしを支える	(1)健康づくりの推進 (2)すまいの環境をまもる (3)消費者問題への取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型感染症等の被害の発生防止・拡大防止に向けた健康危機管理の充実</li> <li>・小児救急をはじめとした救急医療体制の充実</li> <li>・こころの健康対策のための普及啓発、相談対応、ネットワーク強化等の推進</li> <li>・誰もが安心して暮らすことができるよう住宅困窮者の居住の安定化等の推進</li> <li>・消費に関する情報提供、検査機能の充実</li> </ul>
働きやすさと働く場をつくりだす	(1)ワーク・ライフ・バランス戦略 (2)就業能力の向上 (3)雇用のミスマッチへの対応 (4)市民生活の基盤である安定した雇用の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な働き方の推進による幅広い人材活用やその前提となる待機児童解消など福祉サービスとの連携</li> <li>・高齢技能者による若者への技能伝達や、大学等を活用した学び直しに対する支援</li> <li>・職業安定所と福祉事務所の連携による市民に身近な場所での個人の能力、経験等を勘案した就労支援</li> <li>・企業誘致の推進などによる働く場の確保</li> </ul>

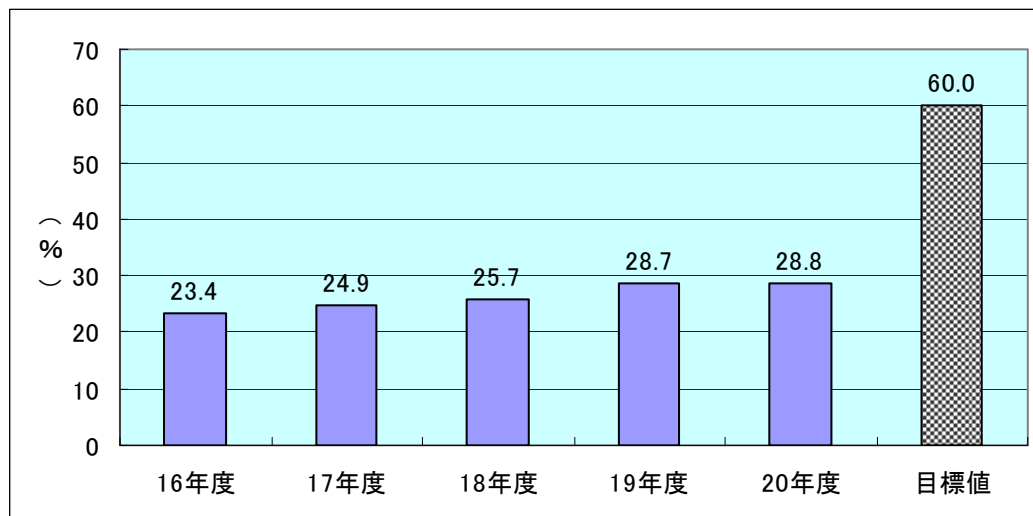
## 第3部 暮らし・経済の基盤を固める⑩

### 【取り組みの方向性②】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
地域の産業の活性化	(1)市民の生活に結びついた農漁業の活性化 (2)すぐれたデザインを核とした神戸の生活文化産業の活性化 (3)地域の商業の活性化 (4)地域住民の暮らしを支えるサービス産業の活性化 (5)社会的企業が活躍しやすいしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業やNPOの農業への参入による農業以外のノウハウの活用や、地産地消の推進</li> <li>・すぐれたデザインと企業が出会う場づくりの推進</li> <li>・新規開業、新規分野の開拓、サービス技術の向上など個店の魅力向上による「業」としての活性化への支援</li> <li>・行政業務の外注化など社会的企業の領域拡大</li> <li>・若年無業者が労働市場へ戻るきっかけづくりへの社会的企業の活用</li> </ul>
集客観光の強化	(1)滞在型観光の推進 (2)観光資源の創出と活用 (3)神戸の魅力の発信 (4)おもてなしの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE(企業内会議、報奨旅行、コンベンションなど)の誘致やメディカルツーリズムの推進</li> <li>・クルーズ船の母港としての神戸観光の結節点化</li> <li>・地域に根ざした着地型観光資源の発信</li> <li>・150万市民や観光特使など人的ネットワーク活かした情報発信</li> <li>・ホスピタリティの向上や観光のユニバーサルデザインの充実</li> </ul>
ものづくりの技術の向上と発信	(1)新たな成長分野で活躍する企業の集積と展開 (2)産学官連携による優れたものづくり技術開発に向けた支援 (3)ものづくり産業におけるプロダクトデザインへの支援 (4)ものづくり企業の販路開拓支援 (5)新産業創造に向けた起業家などへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道車両や原子力発電関連機器など低炭素社会に貢献するインフラやエネルギー関連分野の集積強化と産業振興</li> <li>・大学や研究機関等との技術連携</li> <li>・ものづくり企業への次世代スパコンの利活用</li> <li>・中小企業の国内外への販路開拓強化</li> <li>・新分野への進出に取り組む中小・ベンチャー企業など有望な事業計画に対する事業化支援</li> </ul>
多様な企業集積を生み出すみなとの形成	(1)国際水準の質の高い港湾機能を備えたみなとの形成 (2)利用者ニーズに対応した神戸空港の機能充実 (3)海事産業の集積を活用した産業活性化 (4)臨海部における産業用地の有効活用 (5)利便性の高い都市基盤と知的プロジェクトを活用した企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパー中核港湾の形成(高規格コンテナターナルの形成と集約化) ・内航フィーダー網の活用</li> <li>・海事産業(海運・造船、客船など)の集積を活用した産業活性化</li> <li>・神戸空港の運用時間の延長や国際ビジネス便等の受入など利便性の向上</li> <li>・利便性の高い都市基盤や知的プロジェクトを活用した企業誘致</li> </ul>

## 第4部 次世代のまちをつくる①

データ1:ユニバーサルデザインの言葉も考え方も知っている市民の割合



UDの認識度は年々上がっていますが、まだ目標値に対して半分に達していない状況です。

(神戸市民1万人アンケートより)

データ2:外国人登録者数の推移

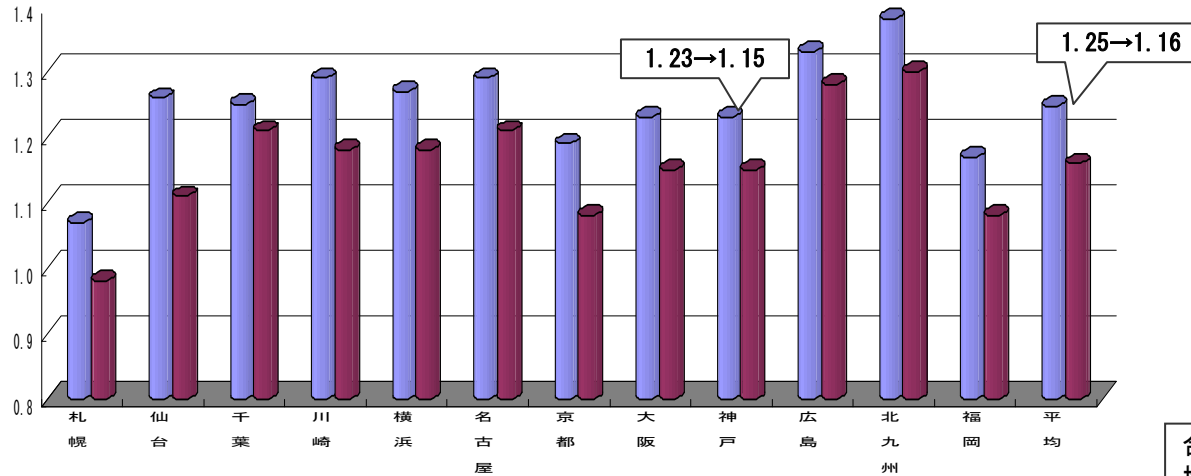
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
韓国・朝鮮	25,623	25,380	25,015	24,560	24,094	23,529	23,035	22,487	22,032	21,058
中国	9,488	10,107	10,810	11,710	12,319	12,024	12,431	12,563	12,680	14,236
ベトナム	945	985	1,027	1,061	1,075	1,104	1,208	1,269	1,334	1,443
米国	1,390	1,373	1,317	1,277	1,209	1,270	1,269	1,307	1,270	1,293
インド	1,070	1,029	1,030	1,030	1,034	1,047	1,065	1,066	1,072	1,074
フィリピン	537	627	648	663	732	790	790	849	874	991
ブラジル	792	791	890	858	710	600	724	647	603	641
その他	2,840	3,065	3,392	3,549	3,733	3,741	3,892	3,801	3,786	4,018
計	42,685	43,357	44,129	44,708	44,906	44,105	44,414	43,989	43,651	44,754

(出典:国際文化観光局調べ)

市内外国人登録者数の約半数を韓国・朝鮮籍の人が占めています。近年は、中国籍やベトナム籍、フィリピン籍の人の比率が高まってきています。

# 第4部 次世代のまちをつくる②

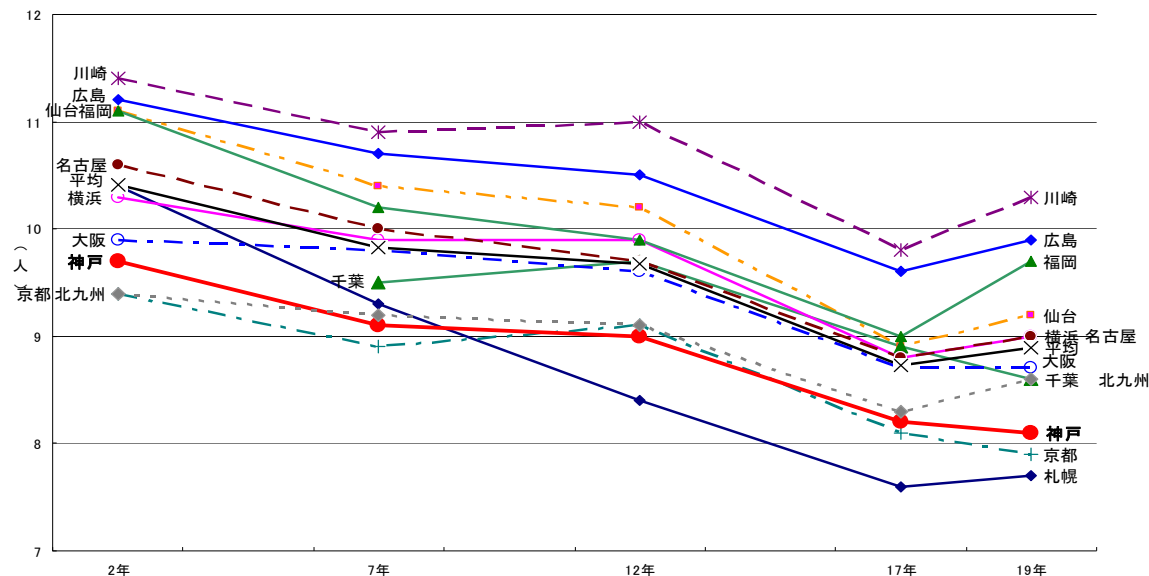
データ3:合計特殊出生率 12都市比較(平成12年・17年)



(出典:厚生労働省 人口動態統計)

合計特殊出生率は、12大都市中のほぼ平均となっていますが、出生率は平均よりも下回っています。そして、いずれの数値も低下傾向にあります。

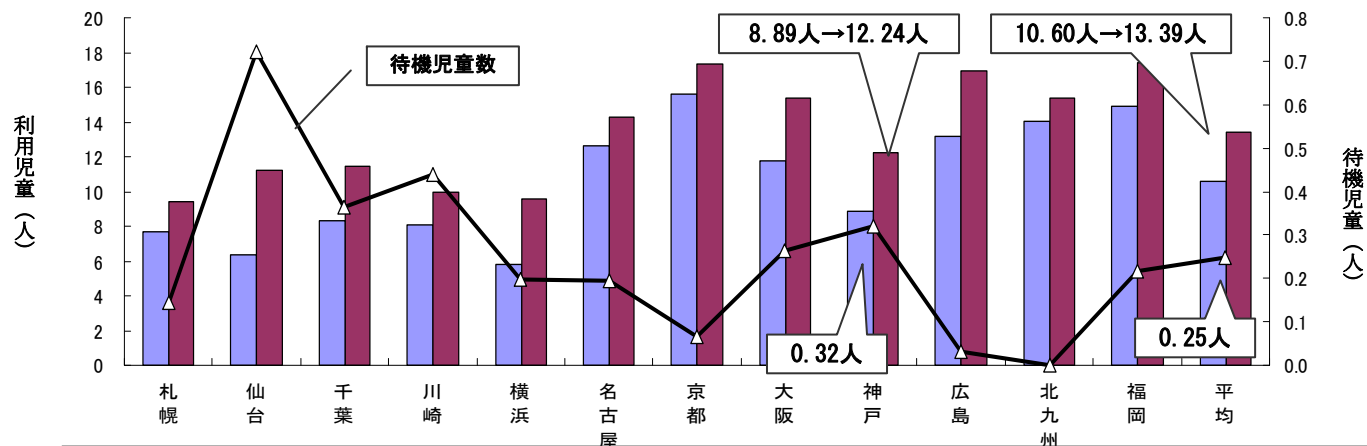
データ4:出生率(人口千対)12都市比較(平成12年~19年)



(出典:厚生労働省 人口動態統計)

## 第4部 次世代のまちをつくる③

データ5: 保育所利用児童数と待機児童数の比較(平成5年・20年、待機児童数は20年のみ)(人口1000人あたり)



(出典: 利用児童数は大都市比較統計年表 平成5年は6年3月、20年は同年4月現在。待機児童数は厚生労働省ホームページより作成)

20年の人口あたりの保育所利用者数は12大都市平均中7位で平均よりも低く、待機児童数は4位で平均よりも多い状況です。

データ6: 授業が分かる児童生徒の割合(平成15~19年度 神戸市学力定着度調査)

	よく分かる	だいたい分かる	分からないことが多い	ほとんど分からない	※学校の授業が分かる児童生徒	目標値(2010ビジョン)
19年度小5	34.0%	55.6%	9.3%	1.0%	89.6%	90%以上
18年度小5	31.4%	58.9%	8.0%	1.5%	90.3%	
17年度小5	30.5%	59.5%	7.9%	2.0%	90.0%	
16年度小5	29.2%	59.0%	9.5%	1.8%	88.2%	
15年度小5	29.5%	61.1%	7.4%	1.7%	90.6%	
19年度中2	12.6%	61.8%	21.3%	4.2%	74.4%	80%以上
18年度中2	11.8%	62.7%	23.6%	1.9%	74.5%	
17年度中2	8.7%	62.1%	24.4%	4.8%	70.8%	
16年度中2	11.5%	64.7%	19.5%	4.0%	76.2%	
15年度中2	9.2%	63.6%	22.9%	4.1%	72.8%	



## 第4部 次世代のまちをつくる④

データ7:子どもたちの地域行事等への参加率の推移(神戸市保健福祉局及び教育委員会指導課調査)

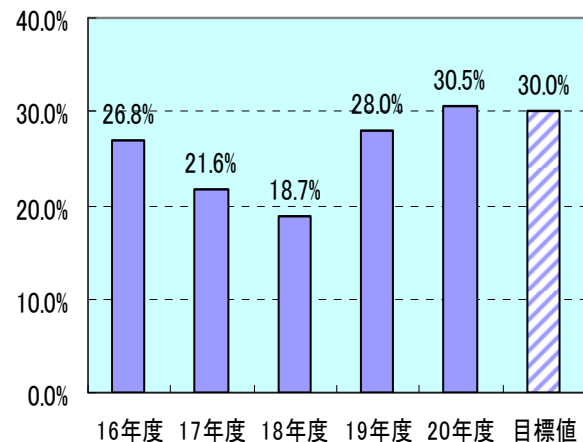
	12年度	15年度	17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (2010ビジョン)
小学校5年生	80.1%	81.1%	86.7%	82.7%	84.1%	85.9%	85%
中学校2年生	73.1%	65.5%	65.3%	73.7%	73.2%	69.4%	75%

データ8:地域で子どもの見守りや青少年の健全育成の手助けをしている市民の割合

(市民参画推進局「神戸市民1万人アンケート」)

16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (2010ビジョン)
19.3%	12.3%	13.4%	14.0%	15.7%	30%

データ9:日常的に文化活動を行っている人の割合(神戸市1万人アンケート)



設問には、文化活動※として、音楽、茶道、華道、書道、舞踏、写真、文芸、手芸、料理等の習い事も含む。とし、自ら行う創作活動を意図した。

## 第4部 次世代のまちをつくる⑤

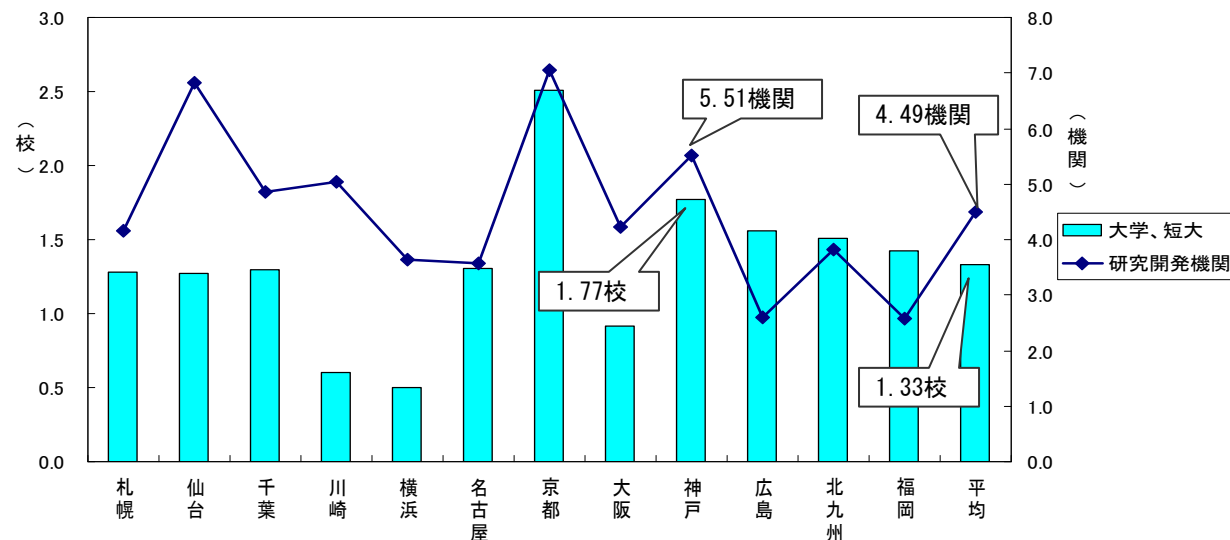
データ10: 神戸らしさの調査

項目	割合	項目	割合
国際的で異国情緒があふれるまち	52.1%	気候が温暖なまち	15.8%
震災を経験したまち	51.6%	開放感があふれるまち	8.1%
みなとまち	45.7%	先取的なまち	4.6%
おしゃれなファッションのまち	44.1%	大学の多いまち	2.7%
景観の美しいまち	33.1%	スポーツのさかんなまち	1.5%
グルメなまち	18.5%	その他	1.9%
自然豊かなまち	16.2%		

出典: 2004年(平成16年)年度「神戸市民1万人アンケート」)

「問: 神戸らしさについてどのようなイメージをお持ちですか」上記選択肢のうち3つ選択。国際的で、異国情緒があふれるまちが1位となっています。

データ11: 大学・短大数および学術・開発研究機関数(人口10万人あたり)



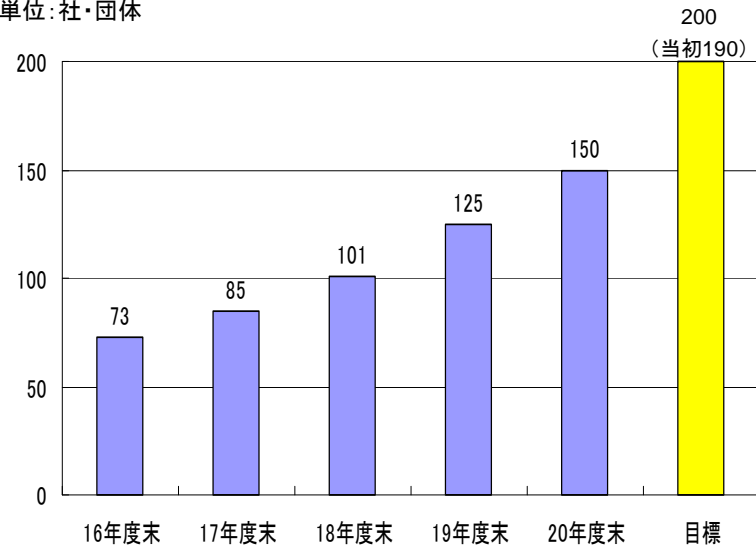
人口あたりの大学数は12大都市中2位、研究機関数は3位で、いずれも平均を上回っています。

(出典: 大都市比較統計年表から作成)

# 第4部 次世代のまちをつくる⑥

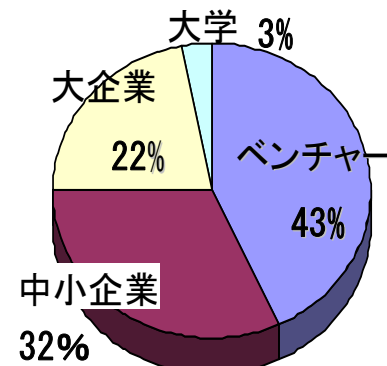
データ12: 神戸医療産業都市構想企業誘致件数(新規創業含む)

単位: 社・団体

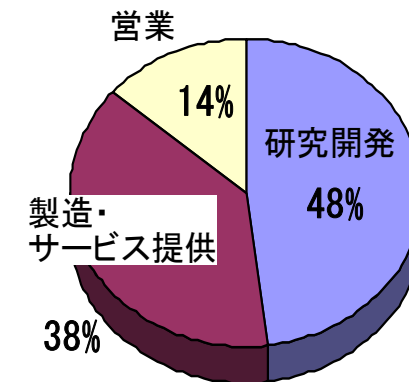


162社の構成

【企業種別】



【企業形態】



平成21年12月16日現在で、医療産業都市構想公表以降の進出企業などが162社・団体になっています。

(出典: 神戸市調べ)

## 第4部 次世代のまちをつくる⑦

### 【取り組みの方向性①】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
一人ひとりを大切にする	(1)一人ひとりを大切にする意識 (2)誰もが参画できるしくみ (3)安全・安心で快適なまち (4)誰もが使えるものづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重、多様性の尊重、男女共同参画など、ユニバーサルデザイン(UD)の意識づくり</li> <li>・すべての人が社会参画しやすい、UDのしくみづくり(例・障害者の移動支援、医療体制充実、就労支援等)</li> <li>・すべての人が暮らしやすく訪れやすい、UDのまちづくり</li> <li>・誰もが使いやすい、UDのものづくり</li> </ul>
子育てを社会全体で支える	(1)地域における子育て支援の充実 (2)仕事と子育ての両立支援 (3)母性並びに子どもの健康の確保と増進 (4)子どもの安全・安心の確保と生活環境の整備 (5)要保護児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな世代の参加による地域での子育て支援の充実</li> <li>・子育てに対する前向きな意識づくりなど次代の親づくり、家庭の子育て力向上</li> <li>・母子保健の推進や小児救急医療体制の充実</li> <li>・発達障害や児童虐待等への対策の充実</li> </ul>
こうべっ子を育む	(1)「確かな学力」「豊かな心」「健康・体力」の基礎基本の定着による、生きるための基盤の形成 (2)学校・教職員の力の向上と教育環境の整備 (3)みんなで子どもの未来を応援するしくみづくり (4)生涯学習の推進 (5)スポーツの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育、環境教育、国際理解教育など特色ある教育の推進</li> <li>・人権教育や市民としての意識づくりなど豊かな心の育成</li> <li>・家庭・地域・学校の連携強化や、教育を支援するNPO団体・ボランティア人材等との連携など、みんなで子どもの未来を応援するしくみづくり</li> <li>・生涯学習の成果を地域に還元するしくみづくり</li> <li>・「する」「みる」「ささえる」スポーツの振興</li> </ul>

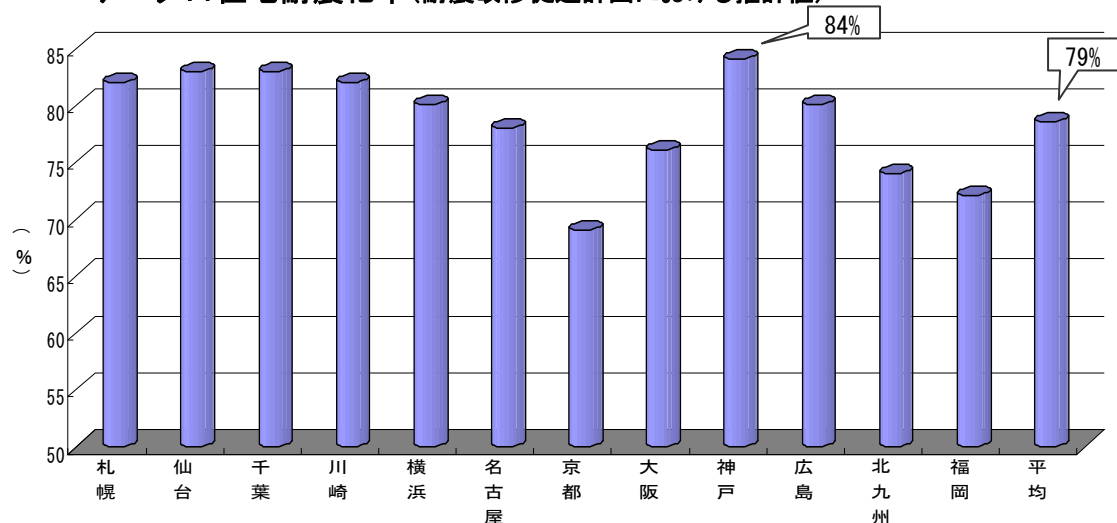
## 第4部 次世代のまちをつくる⑧

### 【取り組みの方向性②】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
神戸らしい文化をつくる	(1)市民の主体的な文化活動への支援 (2)文化芸術の創造主体を育む (3)文化芸術を活かしたまちづくり (4)文化芸術を活かした産業や賑わいの創出 (5)神戸の文化を活かした都市ブランドの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化施設の連携促進、文化芸術の体験機会の充実</li> <li>・NPOなどが文化芸術活動を支える仕組みづくり</li> <li>・既存ストックの活用による芸術文化がもつ創造性を感じるコアエリア・界隈の創出</li> <li>・文化芸術が有する創造性の産業活性化への活用</li> <li>・神戸が発祥の地となる分野を活かした取り組み</li> </ul>
学とともに明日の神戸をつくる	(1)「大学等」と「地域」、「産業界」、「行政」の連携の一層の強化と発信 (2)大学等の教育機能との積極的な連携 (3)大学等の知的資源・人的資源との積極的連携 (4)産業界などとの連携による新たな価値の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学連携支援室を中心に大学と地域、産業界、行政の連携強化</li> <li>・地域等のニーズと大学のシーズのマッチング</li> <li>・大学の多様な特長を活かした人財の育成・集積</li> <li>・大学の特長を活かした地域・まちづくり支援</li> <li>・産業界との連携による新たな価値の創造</li> <li>・雇用の場の創出・社会的企業の育成</li> </ul>
「知の集積」による新たな価値の創造	(1)神戸医療産業都市構想の推進 (2)次世代スーパーコンピュータの利活用 (3)世界に向けての知の交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関連企業・病院群の集積によるイノベーションの加速と市民への高度医療サービスの提供</li> <li>・世界最高水準のスーパーコンピューティング研究開発拠点の形成とシミュレーションでの利活用</li> <li>・関西全体でのスーパークラスターの形成と海外の世界的クラスターとの連携</li> </ul>

# 第5部 持続可能なまちをつくる①

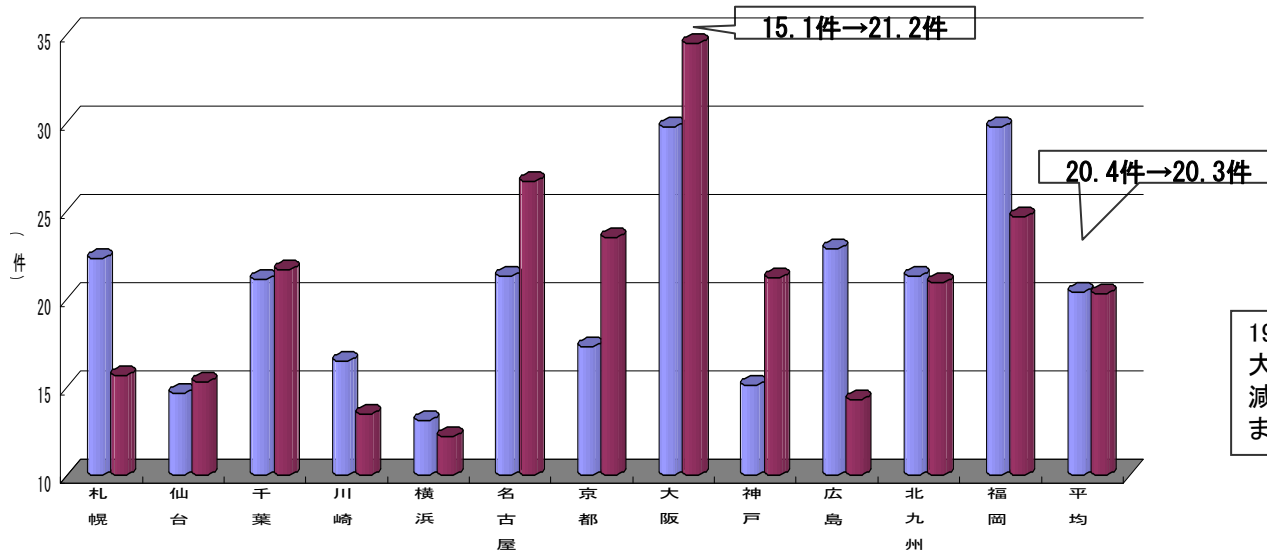
データ1:住宅耐震化率(耐震改修促進計画における推計値)



住宅の耐震化率は12大都市中最も高くなっています。

(出典:都市計画総局調べ 平成15年推計値 ただし千葉、大阪は19年推計値)

データ2:刑法犯認知件数(人口1,000人あたり)(平成4年・19年)

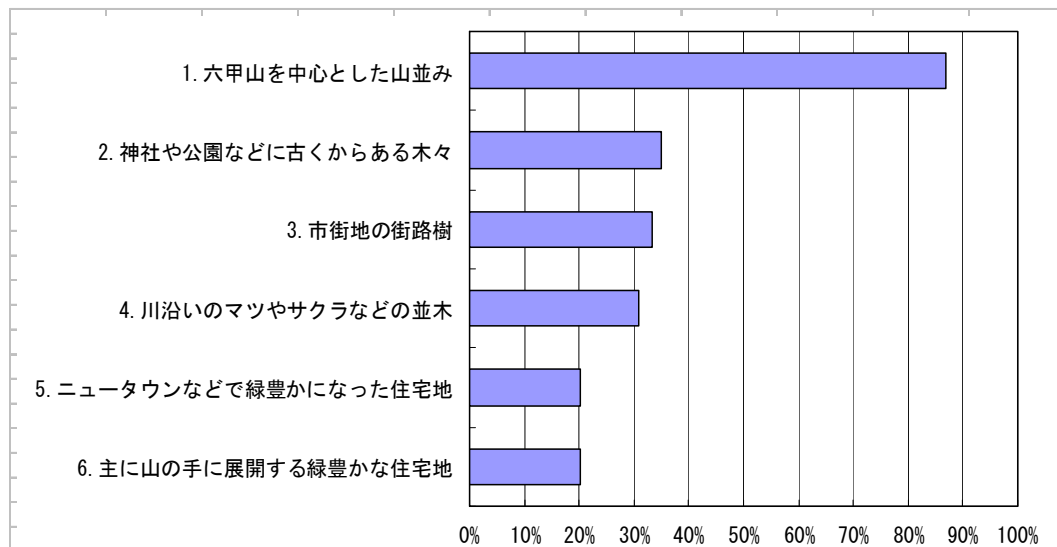


19年の人口あたりの刑法犯認知件数は、12大都市中6位で平均より多く、他都市平均が減少しているのに対し、神戸市は増加しています。

(出典:大都市比較統計年表から作成)

## 第5部 持続可能なまちをつくる②

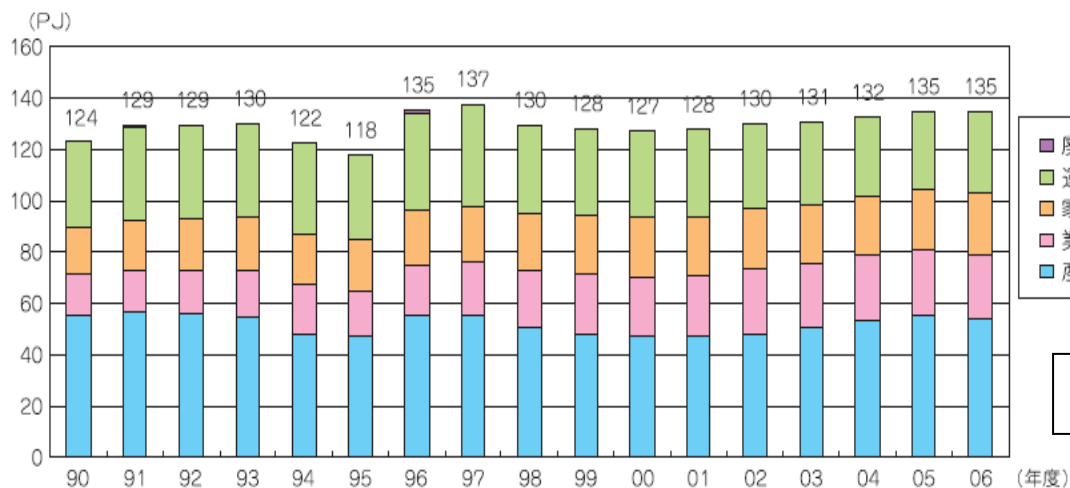
データ3: 緑に関する市民の意識（「神戸らしい緑を感じる景観」に対する回答から）



（出典：H19年度 神戸市民 1万人アンケート）

1「六甲山を中心とした山並み」が圧倒的に高く、神戸のシンボルとしての意識が高い状況がうかがえます。  
2「神社や公園などに古くからある木々」がそれに続いています。

データ4: 神戸市域の部門別エネルギー消費量



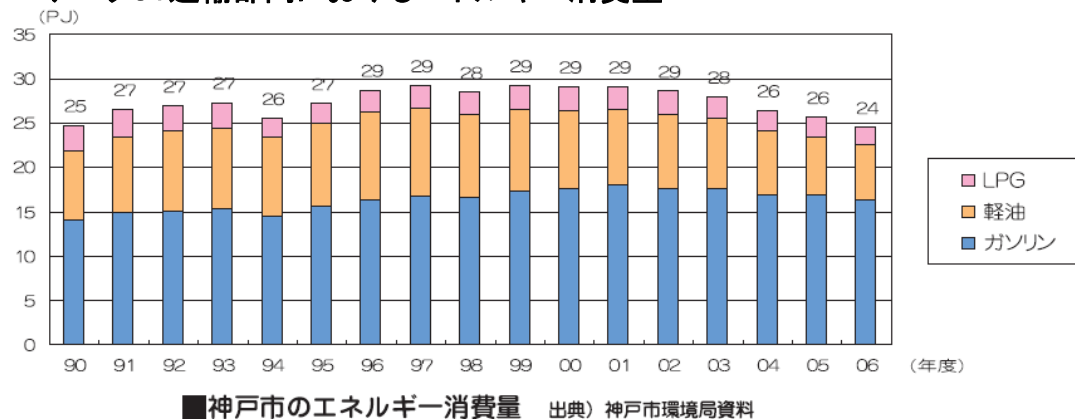
概ね横ばい傾向であり、各部門とも今後、削減への取り組みを強化していく必要があります。

（出典：環境局資料）

神戸市域の部門別エネルギー消費の推移

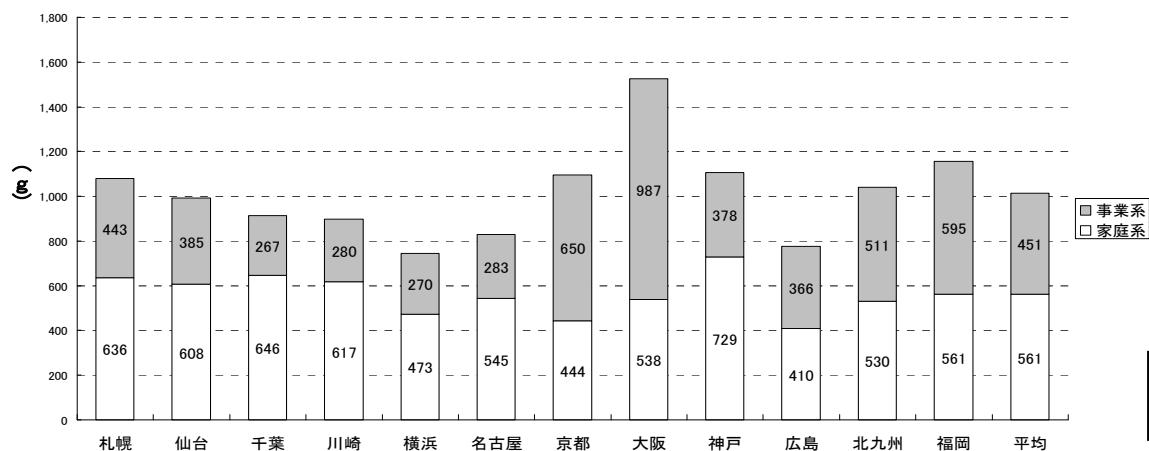
## 第5部 持続可能なまちをつくる③

データ5: 運輸部門におけるエネルギー消費量



運輸部門のCO2排出量の75%を占める自動車のエネルギー消費量は、低燃費化等により2001年以降は減少傾向にあります。

データ6: 市民1人1日あたりごみ量政令市比較(平成19年度実績)



家庭系ごみ量では神戸市が最も排出量が多い状況です。



## 第5部 持続可能なまちをつくる④

### 【取り組みの方向性】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
安全にくらせるまちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)防災意識の高揚</li> <li>(2)協働による安全なまちづくり</li> <li>(3)大規模災害などに対応した都市基盤等の整備・維持管理</li> <li>(4)土地の使い方の工夫などによる安全性を向上させる取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育の推進、国内外への発信</li> <li>・関係機関との連携強化</li> <li>・防災中枢拠点(危機管理センター)や防災総合拠点の耐震化、施設の整備・充実</li> <li>・地域における防犯活動の推進</li> </ul>
美しく魅力あるまちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)水と緑など自然環境を活かしたまちづくり</li> <li>(2)地域特性を活かした神戸らしいまちなみの形成</li> <li>(3)都心域をはじめとした海・まち・山を眺められる景観の保全・育成</li> <li>(4)美しく魅力あるまちをつくるためのしくみの充実</li> <li>(5)自然共生社会の実現に向けた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六甲山系などの自然環境や景観の保全に向けた協働による取り組み</li> <li>・見晴らし型、見通し型の眺望景観の誘導</li> <li>・特色ある夜間景観の形成に向けた取り組み</li> <li>・山から海までの水とみどりのつながりを意識した生態系ネットワークの形成</li> </ul>
低炭素社会を実現するまちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)低炭素社会実現に向けた都市構造</li> <li>(2)エネルギーの効率的な利用によるまちづくり</li> <li>(3)低炭素社会に貢献する産業の振興</li> <li>(4)CO2削減にも貢献する循環型社会の実現に向けた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトなまちづくりの推進(住宅の新規開発による市街化区域の拡大を原則抑制、利便性の高い地域への商業・業務機能の強化、共同住宅の立地誘導など)</li> <li>・低炭素社会を実現するための交通環境の形成(広域・公共交通ネットワークの維持・形成、公共交通の利用促進による市街地への自動車の流入抑制)</li> <li>・再生可能エネルギー・省エネルギーの普及促進</li> <li>・低炭素社会に貢献する産業(エネルギー関連分野など)の振興</li> <li>・循環型社会の実現(3Rの推進)</li> </ul>

# 第6部 神戸づくりを支える都市空間①

## 1 都市空間の全体像

### 基本的視点

- ・あらゆる災害に対応し、くらしの安全をまもる都市空間
- ・人と環境にやさしい都市空間
- ・デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間
- ・活力を創造する都市空間

### 神戸を構成するゾーン

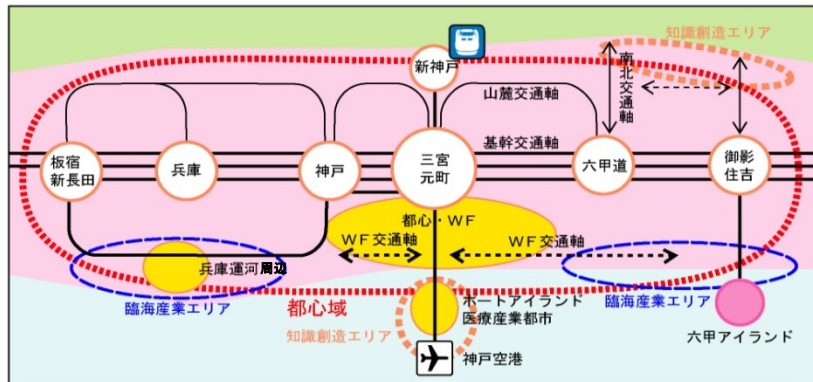
まちのゾーン	既存の市街地を中心とした、多様な都市機能を活かし、持続可能なまちづくりを図るべき地域
田園のゾーン	「人と自然との共生ゾーン」を中心とした、良好な営農環境、生活環境、自然環境の整備・保全など活用を図るべき地域
みどりのゾーン	「緑の聖域」を中心とした、六甲山系や帝釈・丹生山系など自然環境の適正な保全育成を図るべき地域

### 活力と魅力にあふれる人が交流・融合する「みなと」の創造

- ①産業エリアの機能強化(臨海産業エリア、内陸新産業エリアなど)
- ②メガ・リージョンにおける活力・魅力あふれるエリアの創出(都心域など)
- ③地域拠点・連携拠点の機能強化
- ④海・空・陸の広域交通ネットワークの形成  
(神戸港・神戸空港の機能強化、広域・主要公共交通ネットワークの維持・形成)

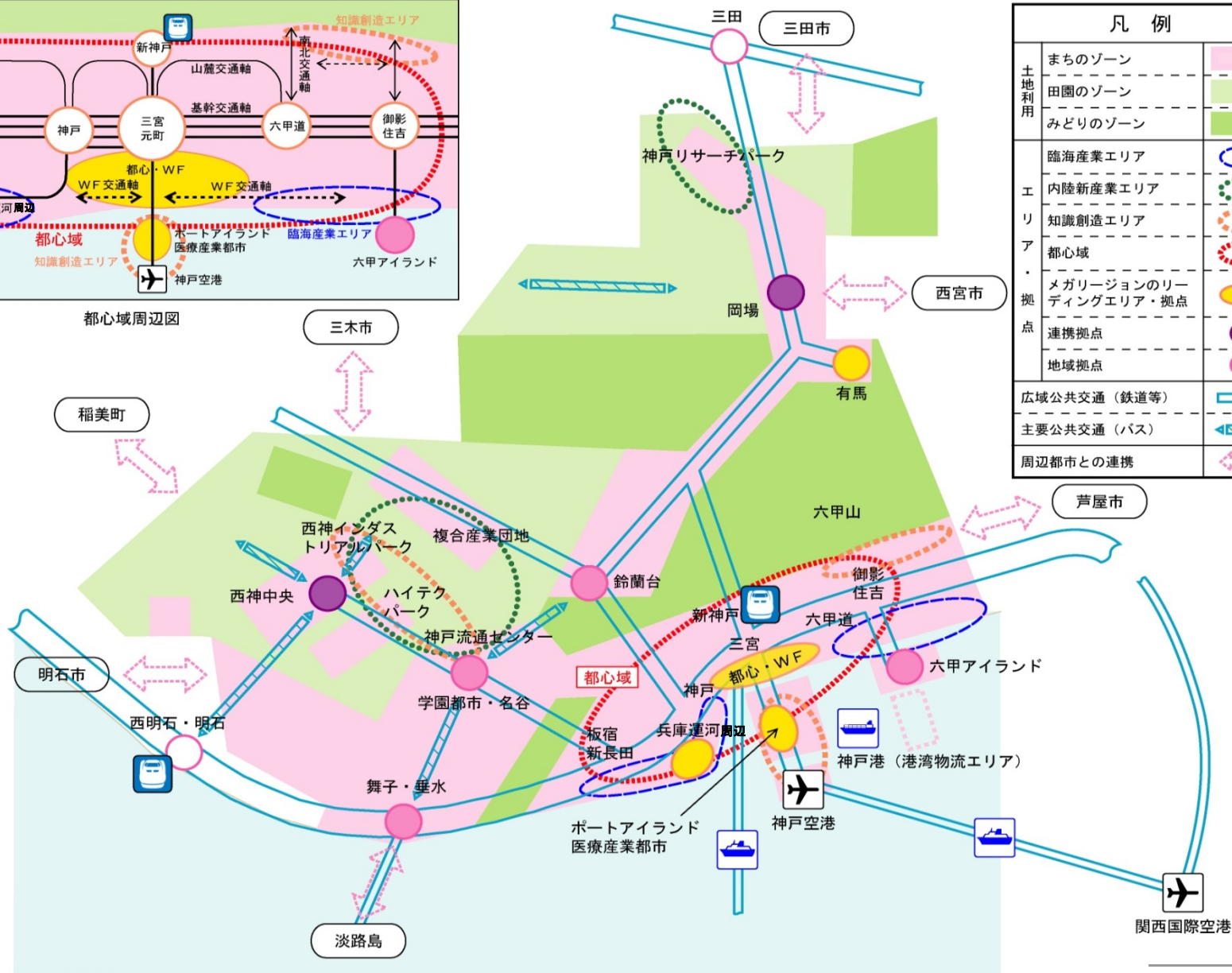
# 第6部 神戸づくりを支える都市空間②

都市空間の全体像（広域・主要公共交通ネットワーク図）



都心域周辺図

凡例		
土地利用	まちのゾーン	
	田園のゾーン	
	みどりのゾーン	
エリア	臨海産業エリア	
	内陸新産業エリア	
	知識創造エリア	
	都心域	
	メガリージョンのリーディングエリア・拠点	
	連携拠点	
	地域拠点	
広域公共交通（鉄道等）		
主要公共交通（バス）		
周辺都市との連携		



## 第6部 神戸づくりを支える都市空間③

### 【課題】

テーマ	課題
秩序ある土地利用をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活利便性の低い地域での空き地・空き家の発生による防災・防犯上の懸念</li> <li>・商業地における商店街などの衰退、高層マンションと周辺地域との調和</li> <li>・工業・流通業務地における産業機能の確保</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な田園環境の維持</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地地域における重要度を増す自然緑地等の保全</li> </ul>
海・空・陸の総合的な交通環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西日本のハブ港をめざす神戸港の機能強化</li> <li>・人、情報の交流拠点としての神戸空港の利便性の向上</li> <li>・広域交通ネットワークの未開通区間への対応</li> <li>・低炭素社会や超高齢社会に対応した移動手段の確保</li> </ul>
地域が主体的に取り組む地域環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密集市街地における狭隘な道路・防火対策、建替困難地域での空家の増加</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟したニュータウンにおける地域活動の停滞・住み替え需要への対応</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田園地域における担い手の不足による農地荒廃、地域コミュニティの活力低下</li> </ul>
活力・魅力にあふれるリーディングエリアを創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心とウォーターフロントにおける機能面・空間面での一体化</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートアイランドにおける「知の拠点」にふさわしい都市アメニティの向上</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫運河周辺における産業・歴史資源など地域資源の活用、ものづくり産業とまちづくりとの連携</li> </ul>

## 第6部 神戸づくりを支える都市空間④

### 【取り組みの方向性①】

テーマ		取り組みの方向性	取り組み例
秩序ある土地利用をめざす	(1)まちのゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①住宅の新規開発による市街化区域の拡大の原則抑制</li> <li>②歩いて暮らせるコンパクトな都市構造の維持・充実</li> <li>③産業エリアにおける更なる集積・機能拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心域や地域拠点等における都市機能の強化</li> <li>・六甲山系等の山麓部でのゆとりのある住宅地の誘導</li> </ul>
	(2)田園のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①田園集落の活性化</li> <li>②良好な田園環境を保全・活用する秩序ある土地利用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園地域における今後想定される多様な土地利用に対応するための市街化区域に準じた秩序ある土地利用の推進</li> </ul>
	(3)みどりのゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりの聖域の保全・育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六甲山系南麓の緑地の積極的な保全・育成</li> </ul>
海・空・陸の総合的な交通環境をつくる		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)交流を促進し、人にやさしい交通環境の形成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①広域交通ネットワークの形成</li> <li>②地域における交通ネットワークの形成</li> <li>③都心域を中心とした魅力的な交通環境の形成</li> </ul> </li> <li>(2)経済を活性化し、環境にやさしい交通環境の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての人に優しく暮らしやすいまちづくりを支え、低炭素社会を実現する交通ネットワークの維持・形成</li> <li>・神戸空港の利便性の向上などを図るため、航空路線ネットワークの拡充</li> <li>・パーソナルな交通手段に対応した交通環境の形成</li> <li>・都心・ウォーターフロントでの環境にやさしい公共交通の導入</li> <li>・西日本のハブ港をめざす神戸港の物流機能の強化と、それを支えるミッシングリンクの解消による広域幹線道路ネットワークの形成</li> </ul>

## 第6部 神戸づくりを支える都市空間⑤

### 【取り組みの方向性②】

テーマ		取り組みの方向性	取り組み例
地域が主体的に取り組み地域環境をつくる	(1)密集市街地	①地域特性を踏まえた身近な道路の整備と建物の耐震化・不燃化 ②空閑地の有効活用	・地域ルールに応じた道路整備と沿道建物の建て替え時の適切な誘導 ・空地・空家の地域内での有効活用(共用空間等)
	(2)成熟したニュータウン	①地域コミュニティの強化 ②多様な主体の協働による地域活動の展開 ③良好な住環境を保全・育成するためのまちづくりの展開	・団塊の世代などの地域活動への参加機会の創出 ・商業施設、公共公益施設などの運営支援 ・住民ルールの策定支援や住み替え支援、公益施設の機能転換
	(3)田園地域	①田園集落の活性化 ②都市と農村の交流促進	・里づくり協議会による取り組みへの支援 ・担い手不足が深刻な地域での新しい人々との融合を図るためのコミュニティ形成への支援 ・住民の移動手段を確保するための取り組み支援
活力・魅力にあふれるリーディングエリアを創出する	(1)都心・ウォーターフロント	①港の歴史を継承し「みなと・まち・やま」をつなぐ ②ウォーターフロントへの都心機能の導入による、新たな魅力と活力にあふれる賑わい空間の形成 ③都心とウォーターフロントを一体とする回遊ネットワークの形成	・都心・ウォーターフロントにおける将来構想をとりまとめ、「港都 神戸」の創生をめざした取り組みの推進 ・魅力的な夜間景観づくり ・創造産業拠点「ウォーターフロント都心」の形成 ・環境にやさしい公共交通機関の導入
	(2)ポートアイランド	①新たな活力・知を創造するまちの創出 ②魅力的で質の高い都市空間の形成	・空港島とポートアイランドとの一体的なまちづくり ・高質な都市空間の形成を通じた知のクラスター創出に資する空間形成
	(3)兵庫運河周辺	①低炭素社会の構築に貢献するものづくり産業と調和した地域の活性化 ②兵庫運河周辺の魅力の向上	・地域資源の活用や世界に誇るものづくり産業と調和した魅力・活力のあるエリアの創出 ・運河を背景とした景観の形成

## 第7部 ともに取り組む神戸づくり①

### 【課題】

テーマ	課題
ともに取り組む神戸づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑化・多様化する行政需要や地域課題への対応</li> <li>・市民の声やニーズをきめ細かく、適時・的確に把握する必要性</li> <li>・行政への信頼のゆらぎ、透明性の一層の向上への期待</li> <li>・市民の声の行政への反映への期待</li> <li>・明確な役割分担、受益と負担をふまえた行財政改革の推進の必要性</li> </ul>
市民の満足度を高める効率的な経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい財政状況下にあっても、市民の満足度と効率的な行政を両立させる必要性</li> <li>・多様化する地域課題や市民ニーズに即応する柔軟な行政システム(※)の構築の必要性</li> <li>・効率性、補完性や財政健全化法をふまえた外郭団体のあり方の見直しの必要性</li> <li>・PDCAサイクルのさらなる推進</li> <li>・職員のさらなる能力向上や多様な人材の登用、組織の活性化</li> </ul>
地域主体のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との関係の希薄化</li> <li>・地域組織の役員の高齢化や後継者不足、組織加入率の低下</li> <li>・地域ニーズへのきめ細かな対応の必要性</li> </ul>
地域主権を確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化が進む中、関西全体の発展の必要性</li> <li>・市域を超える行政需要への対応</li> <li>・近隣地域の中核都市としての神戸の役割への期待</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市特有の財政需要に対する税制上の措置不足</li> <li>・国と地方の税配分における構造上の問題</li> </ul>

※ 行政システム：行政機能を発揮するための行政組織(人員)、行政手続、業務運営などのしくみ

## 第7部 ともに取り組む神戸づくり②

### 【取り組みの方向性①】

テーマ	取り組みの方向性	取り組み例
ともに取り組む神戸づくり	<p>(1)ともに情報を共有し、協働と参画の前提となる「きずな」を強固にする</p> <p>(2)多様な担い手の参画のもと、ともにまちづくりを進めるしくみづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な広報・広聴に向けたしくみづくり</li> <li>・行政の透明化の一層の推進</li> <li>・きめ細かな調査・統計や政策効果の把握の充実</li> <li>・協議や対話の場など、政策形成過程への市民参画機会の拡充</li> <li>・さらなる行財政改革の推進（受益と負担の適正化・役割分担）</li> </ul>
市民の満足度を高める効率的な経営	<p>(1)柔軟で機動的な行政システムの構築</p> <p>(2)効率的な経営を支える「神戸版」PDCAサイクルの確立</p> <p>(3)総合的人材マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズに即応する柔軟な行政システムの構築</li> <li>・民間活力の導入／外郭団体の経営チェックの強化と外郭団体の再編促進</li> <li>・選択と集中、予算、人事、組織が連動した「神戸版」PDCAサイクルの確立</li> <li>・職員提案制度充実など、職員のやる気を一層引き起こすしくみづくり</li> <li>・外部人材など多様な人材の登用／多様な勤務形態の導入</li> </ul>



## 第7部 ともに取り組む神戸づくり③

### 【取り組みの方向性②】

テーマ		取り組みの方向性	取り組み例
地域主体のまちづくり	自律的な地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)人と人とのつながりが豊かな地域コミュニティ</li> <li>(2)地域を支える人財等の育成</li> <li>(3)地域活動に参加しやすいしかけ</li> <li>(4)ゆるやかな連携(地域ネットワーク)の促進</li> <li>(5)地域の実情に応じた地域活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉、子育て、防災、まちの美化などを通じた地域のつながりの醸成</li> <li>・団塊の世代など幅広い世代の地域活動への参加促進</li> <li>・大学との連携による地域活動支援</li> <li>・専門家の派遣など、オーダーメイド型の地域活動支援メニューづくり</li> </ul>
	地域を支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域担当制の強化によるまちづくり支援体制の充実</li> <li>・地域の実情や本庁との役割分担をふまえた区役所機能の弾力的見直し</li> <li>・区長権限の強化</li> </ul>	
地域主権を確立する	広域行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西4都市における事業連携・情報共有の強化</li> <li>・神戸隣接市・町長懇話会などによる連携・相互補完関係の強化</li> </ul>	
	大都市制度の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定都市市長会、関西4都市市長会議等における連携</li> <li>・新たな大都市制度の創設に向けた取り組み推進</li> </ul>	

# むすび： 人財が集い、交わり、活きるまちづくりへ ～「デザイン都市・神戸」の実現～

## 新・神戸市基本構想（目標年次：2025年）

平成5年9月20日議決

基本理念：世界とふれあう市民創造都市

市民の豊かで安定した暮らしを支える基盤として、人・物・情報の交流を生かしながら、**人材を育て、**新たな文化や産業を創造し、国内はもとより世界に向けて発信する神戸でなければならない。

（世界とふれあう市民創造都市より一部抜粋）

基本構想の策定から16年あまりが経ち、社会経済情勢の変化など**新たな課題に直面**

### 課題

- ・生産年齢人口の減少
- ・激化する国内外の他都市との人財獲得競争
- ・増加するリタイア後の団塊世代や高齢者の活躍の場づくり
- ・協働と参画で進める地域づくり・まちづくりにおける担い手不足
- ・文化・産業における新たな価値の創造による魅力・活力の向上の必要性
- ・選ばれるまちであるために、「神戸らしさ」に磨きをかける必要性 …

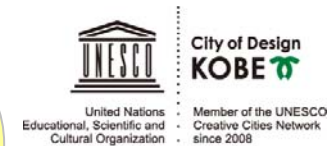
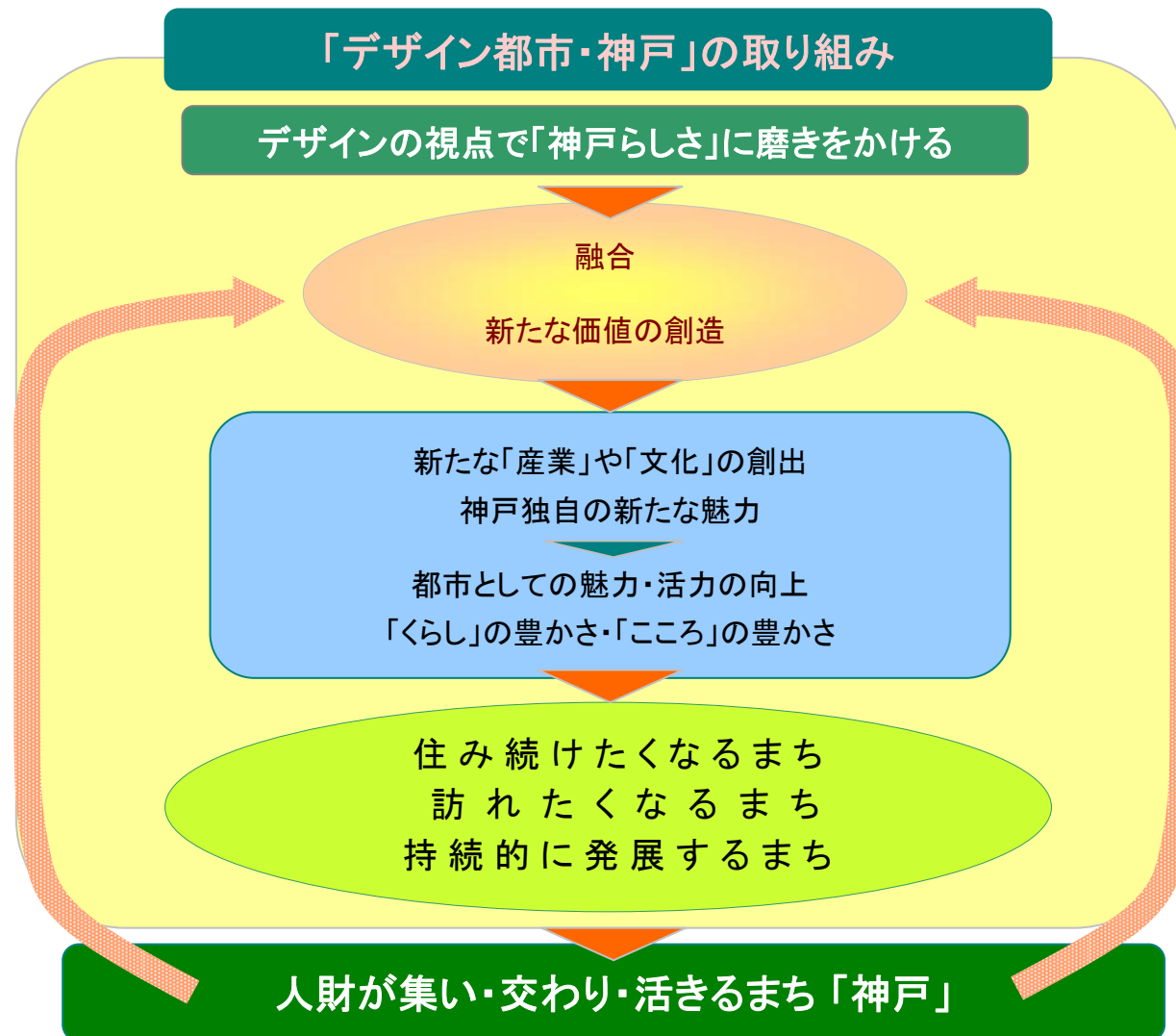
これからの神戸が、活力・魅力を高め、「きずな」やこころの豊かさが感じられるまちへと成長していくためには、

**人財の集積・交流・活躍が不可欠**

そのためには

## 取り組みの方向性 ①

協働と参画により「デザイン都市・神戸」を実現し、  
人財が集い・交わり・活きるまち神戸へ



## 取り組みの方向性 ②

### 人財を活かす観点での施策展開

- 豊かな経験・ノウハウを持つ高齢者、団塊世代の退職者などが、あらゆる分野で活躍できる場を創出
- 企業の誘致などによる若者の雇用の場の拡大
- ワーク・ライフ・バランスや企業のダイバーシティの推進 … など

### エピソード：1世紀前の先人たちに学ぶ（観音林倶楽部・賀川豊彦など）

明治の終わりごろ、風光明媚な住吉村（現在の神戸市東灘区近辺）に当時の財界人たちがこぞって邸宅を構え、日本における地域コミュニティやクラブサロン活動の先駆けとなる「観音林倶楽部」を明治45年に設立し、その後の甲南学園や甲南病院、さらには灘購買組合の創設の礎となっていきました。

特に灘購買組合の設立には、当時友愛と共同の精神のもとに貧しい人々の救済のために活動を続けた社会運動家賀川豊彦も参画するなど、まさに神戸の地に集ったこれら「人財」の交流が、その後の「人々が互いに協同し、生活を守り合う」気風や市民活動につながっていったと言えます。

観音林倶楽部の設立や賀川豊彦の献身的な諸活動から100年を迎えるにあたり、私たちは今一度先人たちに学び、多くの人財が集い・つながることで、新たな地域コミュニティが形成され、協働と参画のもとにまちが飛躍的に発展していくすがたを2025年に向けて再現していきます。

これからの神戸づくりを行うのはとりもおさず、わたしたち市民も含めた「人財」にほかなりません。

観音林倶楽部が設立されて100年という節目の年である2011年を起点に、これからの神戸づくりに向かって、ともに集い、ともに交わり、そしてともに生きていきましょう。